

亀田医療大学 年報

2015（平成27）年度

KAMEDA COLLEGE OF HEALTH SCIENCES

はじめに

亀田家の先祖が志を持って幕末に開設した鉄蕉館は、当地において啓蒙と教育の実績をあげてきましたが、このたびの亀田医療大学第1期生の76名の卒業により大きく結実したといっても過言ではないでしょう。第1回目の看護師国家試験の結果も97%を超える合格率を上げることができました。これも皆様から様々な形でご協力、ご助力を頂いたお蔭と深謝致します。初代学長のクローズ幸子氏は本学の特徴として、実践の中での看護教育を掲げています。従って本学卒業生達は臨床現場においても有能な看護師として活躍するものと期待しています。

さて1990年代から日本は高齢化だけではなく深刻な少子化問題を抱えてきました。そして持続する少子化の影響は18歳人口、大学受験人口の減少、停滞につながっています。一方近年、国や地方自治体の要請により、より多くの看護師養成が叫ばれ、平成28年度の時点では千葉県内に大学の看護学科または看護系大学は本学を入れて12を数え、募集定員は合計で約1,000人に及びます。さらに来年度にも新設校が予定されています。このような現状、近未来の中で房総半島の南端、鴨川の地にある本学をいかに他大学と差別化し、特色と魅力ある大学にすることができるかが、教職員一同の最重要課題と思われまふ。幸いにして本学には医師研修病院として全国では有数の、近代的設備のある国際的な鉄蕉会亀田メディカルセンターを実習病院として有しています。ここでの今までも定評のある急性期医療、周産期医療とともに、今後は高齢化により益々需要の高まる癌医療と整合性のあるカリキュラムを作成し、本学の教育の柱として実践していくことが本学の生き残る道であり、優秀な学生を集める唯一の手段と確信しています。

リサーチマインド、研究成果は大学人として常に求められます。このためには特に助手、助教から准教授クラスの教員達が積極的に学会発表や論文作成に励むことができる環境を整える必要があります。教員各自、年何回かの学会発表、年最低1編の論文作成が習慣となることを希望します。またグローバル化を目指して海外や英文での発表を積極的に目指してほしいと思います。さらに本学の総合研究所を通して前述の亀田メディカルセンターでの臨床研究を多面的に支援する体制を整えつつあります。様々な職種からの臨床研究やひいては産学共同研究が円滑に行えるような組織作りをしていきたいと思ひます。

勉学のみならず学園生活の充実は大変重要なことです。本学学生のためにきびしい財政状況の中でやりくりをしていただいている方々に心から感謝致します。本学はまだまだ様々な難問、課題が山積しておりますが、教職員一同立ち向かっていくつもりですので今後ともなにとぞよろしくお願ひ致します。

以上、2015（平成27）年度年報の巻頭言とさせていただきます。

平成28年9月

鉄蕉館亀田医療大学学長
亀田医療大学総合研究所所長
橋本裕二

目次

1. 使命・目的及び教育目的	1
2. 学修と教授	
2-1. 学生の受入れ	3
2-2. 教育課程及び教授方法	5
2-3. 学修及び授業の支援	9
2-4. 単位認定、卒業認定等	14
2-5. キャリアガイダンス	15
2-6. 教育目的の達成状況の評価とフィードバック	16
2-7. 学生サービス	19
2-8. 教員の配置・職能開発等	22
2-9. 教育環境の整備	23
3. 経営・管理と財務	
3-1. 業務執行体制	25
3-2. 財務基盤と収支	26
3-3. 会計	30
4. 研究活動	31
5. 特徴的な活動	32

6. 教員情報	34
7. 委員会活動等	50
8. 教職員リスト	69

1. 使命・目的及び教育目的

1) 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、有能な人材を育成することを目的とする（学校法人鉄蕉館寄附行為第3条）。

具体的には、21世紀社会が必要とする保健医療福祉分野における学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、時代の要請に応じた保健医療分野のニーズに対応できる専門職者の育成を目的としている。

◇ 学校法人鉄蕉館の使命

我々は、愛の心をもって、学修者が能力を最大限に発揮できるよう支援し、自らの幸せと社会に貢献できる人間を育成することを使命とする。

◇ 基本理念

- ・ 私たちは、すべての学修者を尊重し、信頼し続ける。
- ・ 私たちは、お互いに「信頼と尊敬」の心を持ち、学修者のために協力する。
- ・ 私たちは、固定概念にとらわれないチャレンジ精神とグローバルな視野を持ち、常に変化し続ける。

2) 大学の理念

亀田医療大学は、社会・地域からの医療者教育の要請に応えるため、社会に必要とされる保健医療福祉分野の学術発信拠点として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開できる専門職者の育成を目指している。

本学の理念を「HEART」に集約して表現する。すべての学生が、この理念に集約された特性を持つ教養豊かな社会人、そして医療人として育つことをねらいとするものである。

- H : Humanity (人間への愛と尊厳)
E : Empowerment (動機付け、個人に内在する力の向上)
A : Autonomy (自律性と専門性)
R : Reason (理性)
T : Team (チーム医療)

「HEART」が意味するものは、学生が幅広く豊かな教養を身に付け、21世紀を担う一市民として成長し、医療人として、人間への愛と尊厳をもって人々の健康に注目して対象者やその家族に寄り添い、精神的状況や生活環境などを包括的に把握して全人的にサポートする能力を培うことを目指している。また学生が倫理的、理性的に考える力、高い専門性と自律性を持って行動できる看護実践者として育成されていくこと、そして、益々多様化している今日の保健・医療・福祉サービスの中で、対象者を中心とした質の高い医療を提供するために多職種と協働するチームケアの基本を学ぶことも目指している。亀田医療大学はこうした看護師を育成することが使命であるとともに、社会への貢献のひとつであると考えている。

3) 沿革

◇学校法人鉄蕉館

平成23年10月24日 亀田医療大学設置認可

10月31日 亀田医療大学看護学部看護学科の看護師学校の指定
平成24年4月1日 亀田医療大学看護学部看護学科開学

- ◇ 亀田医療大学 鴨川市横渚 462
 - 平成23年 亀田医療大学設置認可
 - 平成24年 亀田医療大学設置（看護学部看護学科 80名）

2. 学修と教授

2-1. 学生の受入れ

平成 27 年度は、入学志願者数の増加をはかるために、ホームページの充実、ネット媒体の活用、オープンキャンパスの実施、進学相談会への参加、高校訪問等を実施した。この結果、平成 28 年度入学者選抜における、入学志願者数は入学定員の 2.01 倍となった。

① 平成 28 年度の入学試験の実施

看護学部看護学科（定員 80 名）

- ・推薦選考 指定校・公募 平成 27 年 11 月 14 日（土）（会場：本学）
- ・一般入試 I 期 平成 28 年 2 月 6 日（土）・7 日（日）（会場：本学・東京）
- II 期 平成 28 年 3 月 13 日（日）（会場：本学）
- ・センター利用入試 平成 28 年 2 月 27 日（土）（会場：本学）

② 上記の入学試験の結果、看護学科 80 名の入学が確定した。

（入学志願者等内訳）

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続き者数
推薦入試	指定校	30 名	21 名	21 名	21 名	21 名
	公募	10 名	19 名	19 名	19 名	19 名
一般入試	I 期	25 名	89 名	76 名	55 名	32 名
	II 期	5 名	16 名	15 名	4 名	3 名
センター利用入試		10 名	16 名	11 名	9 名	5 名
合 計		80 名	161 名	142 名	108 名	80 名

（注）80 名中 51 名（63.8%）を千葉県出身者が占めている。

③ 進路相談会

学生募集関連業者主催 33 会場に出席 延べ 209 名と面談。
高等学校主催 21 校に出席 延べ 204 名への看護学及び本学の説明

④ 模擬授業 8 校に出席 延べ 192 名に実施。

⑤ オープンキャンパス

平成 27 年度は、受験生向けオープンキャンパスを前年度より 2 回増加して 11 回開催し、このうち専門学校合同企画の看護職セミナーを 1 回開催した。受験生向けオープンキャンパスの総参加者数は 515 名、うち受験対象者は 312 名（60.6%）で、（高校 3 年生 182 名、保護者等 203 名）は対前年比 115%であり、本学志願者延数 161 名中のオープンキャンパス参加者が 61 名を閉めていた。

近年は、全国的にオープンキャンパス参加者の低年齢化の傾向があり、本学も高校 1～2 年生の参加者数が 126 名で、昨年度（106 名）より増加している。

・高校教員の為のオープンキャンパス

期日：5 月 29 日（金） 3 名（3 高校参加）

内容：大学概要・入試説明・施設見学・理事長との座談会・在学生情報交換・質疑応答

・受験生向け選べるオープンキャンパス（全 11 回実施）

【A コース：学習体験コース】 4 回

参加者：296名

6月20日（土）36名、7月18日（土）50名、8月7日（金）103名

8月23日（日）107名

内容：大学概要・入試説明・看護体験・模擬授業、在学生とのフリートーク・キャンパスツアー

【Bコース：実習施設見学コース】3回

参加者：173名

5月24日（土）64名、8月17日（月）53名、8月22日（土）56名

内容：大学概要・入試説明・キャンパスツアー・実習病院見学

【ミニオープンキャンパス：半日コース】1回

参加者：9月26日（土）23名

内容：大学概要・入試説明・キャンパスツアー

【秋のオープンキャンパス】1回（学生主体による開催）

参加者：11月28日（土）23名

【大学祭会期中のオープンキャンパス】2回

内容：施設見学・相談対応

2-2. 教育課程及び教授方法

1) カリキュラム表

平成27年度在学の4年次生から、実習施設の関連、学年間の科目重複などの理由によりカリキュラムの一部修正を行った。

平成26年度以降入学生用

区分	授業科目	配当年次	単位数		授業形態			履修者数 (選択科目)	担当教員名 (代表者名)
			必修	選択	講義	演習	実験・ 実習		
リ ベ ラ ル ・ エ デ ュ ケ ー シ ョ ン	コミュニケーション・人間関係論	1前	1			○		中村 千賀子	
	情報科学	1前	1			○		宮城 孝満	
	文化人類学	1後	1		○			工藤 由美	
	ナラティブ表現法	1後	1			○		宮本 眞巳 足立 智孝	
	生命倫理学	2後	1		○			足立 智孝	
	医療人文学	1前		1	○			70 足立 智孝	
	哲学	1後		1	○			65 高梨 俊毅	
	心理学	1後		1	○			79 富安 哲也	
	倫理学	1後		1	○			81 足立 智孝	
	音楽鑑賞	1後		1		○		61 山崎 綾子	
	生涯教育論	2後		1	○			24 高梨 俊毅	
	外 国 語	English I (日常会話一初級)	1前	2			○		James Kelly Rodney Moore
		English II (日常会話一中級)	1後	2			○		James Kelly Rodney Moore
		中国語 I (日常会話一初級)	1前		1		○		86 呉 宝珠 原 信太郎
		中国語 II (日常会話一中級)	1後		1		○		77 呉 宝珠 原 信太郎
		English III (日常会話一般)	2後		1		○		13 大山 中勝
		看護英語	2前		1		○		28 大山 中勝
	環 境	家族社会学	1後	1		○			米林 喜男
		社会福祉学	1後		1	○			15 村上 信
医療安全		2前	1			○		渡邊 八重子 休波 茂子	
社会学		1前		1	○			20 米林 喜男	
経済学		1前		1	○			34 黒木 祥弘	

リベラル・エデュケーション	環 境	国際理解と国際貢献	1前	1			○			工藤 由美 米林 喜男 原田 光子 水野 左敏
		南房総の歴史と未来	2後		1	○			20	古市 一雄
		ホスピタルアート	1前		1	○	○		35	高橋 文子 関根 一夫
	健 康 科 学 I	化学	1前	1		○		○		水野 左敏
		統計学	1前		1	○	○		88	片多 史明
		セルフヘルスプロモーション	1前	1		○				村永 信吾 遠藤 寛子
		生物学	1前	1			○			鈴木 康宣
		物理学	1前		1	○		○	3	大野 直次
		体育	1通		1			○	81	大澤 有美子 宮本 瑠美
	ゼミ ナール	基礎ゼミナールⅠ (アーリー・イクスプोजャー)	1前	1			○			小幡 光子 佐藤 真由美 他
		基礎ゼミナールⅡ	1後	1			○			深谷 智恵子 新居 富士美 他
		基礎ゼミナールⅢ	2前	1			○			吉川 一枝 久保 幸代 他
	小計 (34科目)		—	18	18	—			—	—
	専 門 基 礎 分 野	健 康 科 学 II	発達心理学	1後	2		○			
疫学			2後	1		○				水野 左敏
保健統計			2後	1		○				水野 左敏
健康支援と社会保障制度			2後	2		○				米林 喜男
人間機能学 (形態と機能)			1前	4		○		○		河野 俊彦 大石 昌也
人間病態学Ⅰ (病気の成り立ち)			1後	3		○	○			大石 昌也
人間病態学Ⅱ (感染と免疫学)			2前	3		○		○		細川 直登 大塚 喜人 他
栄養・生化学			2後	2		○				鈴木 勝彦
臨床薬理学Ⅰ (基礎)			2後	2		○				舟越 亮寛
小計 (9科目)		—	20	0	—			—	—	

専 門 分 野 I	基 礎 看 護 学	看護学概論	1前	2		○				休波 茂子
		基礎看護技術論	1後	1		○				休波 茂子
		日常生活援助論	1後	2			○			佐久間 夕美子 休波 茂子 渡邊 八重子 鵜沢 淳子 有家 香
		治療援助論	2前	1			○			鵜沢 淳子 休波 茂子 渡邊 八重子 佐久間 夕美子 有家 香
		看護展開論Ⅰ（ナーシングプロセス）	2前	2		○				休波 茂子 渡邊 八重子
		看護展開論Ⅱ（ヘルスアセスメント）	2前	2			○			休波 茂子 渡邊 八重子 佐久間 夕美子 鵜沢 淳子 有家 香
		基礎看護学臨地実習Ⅰ	1後	1				○		佐久間 夕美子 休波 茂子 渡邊 八重子 鵜沢 淳子 有家 香 他
		基礎看護学臨地実習Ⅱ	2後	2				○		休波 茂子 渡邊 八重子 佐久間 夕美子 鵜沢 淳子 有家 香
小計（8科目）		—	13	0	—			—	—	
専 門 分 野 II	ライ フ ス パ ン 看 護 学	成人看護学概論	2前	2		○			小幡 光子 深谷 智恵子 真野 響子 古賀 雄二	
		慢性期成人看護援助論	2後	2			○		真野 響子 小幡 光子 深谷 智恵子 佐藤 真由美 高橋 道明	
		高齢者看護学概論	2後	2		○			新田 静江 新居 富士美	
		精神保健看護学概論	2後	2			○		太田 知子	
	ウ イ メ ン ズ ヘ ル ス ・ 小 児 保 健 看 護 学 ・ 実 習	ウイメンズヘルス看護学概論	2後	2		○			恵美須 文枝 久保 幸代 金澤 貴子	
		小児保健看護学概論	2後	2		○			吉川 一枝	
小計（6科目）		—	12	0	—			—	—	
統 合 分 野	マ ク ロ 看 護 学	看護の統合と実践Ⅰ（序論）	1前	1		○			宮本 眞巳	
		小計（1科目）		—	1	0	—			—
合計		—	64	18	—			—	—	

2) 教育内容・方法等の充実

本年度は大学開学4年目に当たる。前年度に倣い、年度初めに教育を円滑に進めるための学年ごとのガイダンスを行い、シラバス、学生便覧（学生生活等を案内した冊子）を学生に配布、学生便覧を用いて説明を行った。さらに、学生掲示板等により学生への教育及び学生生活上の情報提供の強化を図った。

特に今年度は、ガイダンス時及び、各授業開始前に、教育理念や目標、カリキュラムマップを用いて、詳しく科目の位置づけ、科目間の関連性や順序性についての説明を行った。

それに合わせ、非常勤講師にも同様な説明を行い、教務・カリキュラム委員会では、講義・演習・実習がカリキュラムやシラバスに沿って適正に授業が行われているか、シラバス概要と授業内容を整合させているかなどの確認を行った。

また、教員の授業改善に役立てるため、例年通り、学期末に学生による授業評価アンケートを全授業科目について実施し、各教員はその評価を受けて授業に対する改善策の提案を行った。

また、平成29年度の新カリキュラム改正に向けてカリキュラムワーキングを立ち上げ、FD委員会と連携を図りながら、カリキュラム全体の改善について一年間の検討を行った。

今年度は、4年次生の初めての選択実習、地域看護学臨地実習、看護の統合と実践臨地実習を行った。実習による教育効果（実践能力）をあげるために、実習施設と連携を図りながら、実習環境、指導体制等の調整を行った。

また、亀田総合病院及び地域の医療機関所属中堅看護師等を対象に、平成25年度から継続的に行っている実習指導者研修会を実施し、臨床指導者のスキルアップを図った。

2-3. 学修及び授業の支援

1) 退学・休学・復学の実態

種別	退学	休学	復学
4年次生	1	0	0
3年次生	0	0	0
2年次生	3	0	0
1年次生	0	0	0
計	4名	0名	0名

退学者の4年次生1名は、学則違反による行動上の問題による退学であり、2年次生の3名は、進路変更を決断したことによる希望退学であった。

2) チューター制について

学生が豊かな大学生生活を送れるよう、一人ひとりの学生に対して教員がきめ細かな関わりを行い、学生を支援するチューター制を設けている。1~2名のチューターが4学年の学生を複数受け持つ。チューターは、小中高等学校の担任の教員と同じような存在である。具体的な役割は下記のとおり。

(1) 学生生活等のアドバイス

- ① チューターは親身になって学生の相談に応じ、学生の悩みや学習上の困難や躓きを理解し、学生自ら問題解決できるよう指導・助言をおこなう。
- ② チューターは他教職員と連携協力し、学生を支援する。
- ③ チューターは学生の学習面や生活面等の問題について、学生の了解を得て保護者に連絡し、また保護者からの相談を受ける。必要に応じて学年主任に報告する。

(2) 学生相談、指導・助言のための取組

- ① チューターは身上調書（学生記録）に記載されている内容を把握する。
 - ・担当する学生の身上調書（学生記録）の控えを学生係よりもらう。
 - ・身上調書（学生記録）控えは厳重に管理する。知り得た個人情報漏えいしない。
- ② チューターは学生に個別面接をおこない、学生の状況を把握する。
 - ・原則、学年の始め（前期）に行うほか、必要に応じ適宜実施する。面談時期は新生は入学後できるだけ早い時期に実施することが望ましい。他の学年については状況に応じて面接日を設定する。
 - ・面談内容は健康状態、教育上配慮が必要な事項、生活習慣（食事・睡眠…）、交友関係、学習状況、履修状況、アルバイト、保護者との連絡状況、心配事、悩み等であり、学生に応じて面接項目を追加する。
- ③ チューターは学生個々の科目履修状況を把握する。
 - ・科目担当者は科目履修が危ぶまれる恐れがある場合など、必要に応じて学生の出席状況、学習態度、成績等をチューターに報告する。
 - ・前期および後期の成績表にコメントを記入する（10月および3月）。
- ④ チューターは学生の課外活動状況等を把握する。
 - ・部活等の顧問から情報を把握する。また、顧問は必要に応じて、チューターに報告する。
- ⑤ チューターは学生の国家試験に関する支援を行う。
 - ・国試模試結果の把握（推移把握およびデータ保管）
 - ・国試模試結果の返却
 - ・国試模試結果に関する個別面接、学習方法の確認、助言

・必要時学年主任へ報告し、学年主任と連携して学生を支援

⑥ チューターおよび担当学生の変更について

学生・教員双方から『変更願』を届け出ることができる。変更願は学務課に提出する。届け出があった場合は、学年主任会で変更の可能性を検討し、変更が必要なときは担当チューターを決定する。決定後速やかに学務課に報告する。その後学科会議で報告する。

(3) チューターグループ別学生名簿

1年生

学年主任: 原田 光子

	チューター名	学籍番号			
1	宮本 真巳 鈴木 玲子	15111001	15111029	15111057	
2	大石 昌也	15111002	15111030	15111058	
3	真野 響子	15111003	15111031	15111059	
4	佐藤 真由美	15111004	15111032	15111060	
5	久保 幸代	15111005	15111033	15111061	
6	小林 美奈子	15111006	15111034	15111062	
7	渡邊 八重子	15111007	15111035	15111065	
8	米林 喜男	15111008	15111036	15111064	
9	深谷 智恵子 宮崎 俊一郎	15111009	15111037	15111063	
10	新田 静江 中川 泰弥	15111010	15111038	15111066	
11	足立 智孝	15111011	15111040	15111067	
12	新居 富士美	15111012	15111039	15111068	
13	工藤 由美	15111013	15111041	15111069	
14	栗栖 千幸	15111014	15111042	15111070	
15	佐久間 夕美子	15111015	15111043	15111071	
16	金澤 貴子	15111016	15111044	15111072	
17	有家 香	15111017	15111045	15111073	
18	松丸 直美	15111018	15111046	15111075	
19	鶴沢 淳子	15111019	15111047	15111074	
20	高橋 道明	15111020	15111048	15111078	
21	柚山 香世子	15111021	15111049	15111077	
22	太田 知子 小坂 玲音	15111022	15111050	15111076	
23	平山 香代子	15111023	15111051	15111079	
24	遠藤 寛子	15111024	15111052	15111080	
25	宮城 孝満	151110025	15111053	15111081	
26	中島 洋一	15111026	15111054	15111082	15111085
27	吉野 妙子	15111027	15111055	15111083	15111086
28	古賀 雄二	15111028	15111056	15111084	15111087

2年生

学年主任: 休波 茂子

	チューター名	学籍番号			
1	宮本 真巳 鈴木 玲子	14111001	14111031	14111049	14111073
2	大石 昌也	14111002	14111026	14111050	
3	真野 響子	14111003	14111027	14111051	
4	佐藤 真由美	14111005	14111029	14111053	14111028
5	久保 幸代	14111030	14111055	14111004	
6	小林 美奈子	14111007	14111025	14111054	
7	渡邊 八重子	14111008	14111032	14111056	
8	米林 喜男	14111009	14111033	14111074	
9	深谷 智恵子 宮崎 俊一郎	14111010	14111034	14111075	14111052
10	新田 静江 中川 泰弥	14111011	14111035	14111059	14111083
11	足立 智孝	14111012	14111036	14111060	14111084
12	新居 富士美	14111013	14111037	14111077	
13	工藤 由美	14111014	14111038	14111076	
14	栗栖 千幸	14111015	14111039	14111062	
15	佐久間 夕美子	14111016	14111040	14111064	
16	金澤 貴子	14111017	14111041	14111065	
17	有家 香	14111018	14111042	14111066	13111047
18	松丸 直美	14111019	14111043	14111067	
19	鶴沢 淳子	14111020	14111044	14111068	
20	高橋 道明	14111021	14111045	14111069	
21	柚山 香世子	14111022	14111046	14111070	
22	太田 知子 小坂 玲音	14111023	14111047	14111071	14111087
23	平山 香代子	14111024	14111048	14111072	
24	遠藤 寛子	14111057	14111085	14111078	
25	宮城 孝満	14111058	14111082	14111080	
26	中島 洋一	14111061	14111081	14111079	
27	吉野 妙子	14111063	14111086	14111088	
28	古賀 雄二	14111089	14111090	14111091	

3年生

学年主任: 小幡 光子

	テューター名	学籍番号			
	1	宮本 真巳 鈴木 玲子	13111002	13111019	13111036
2	大石 昌也	13111003	13111020	13111037	
3	真野 響子	13111038	12111004	12111021	
4	佐藤 真由美	13111040	13111074	12111075	13111006
5	久保 幸代	13111007	13111024	13111041	
6	小林 美奈子	13111009	13111025	13111042	
7	渡邊 八重子	13111008	13111026	13111043	
8	米林 喜男	13111010	13111027	13111044	
9	深谷 智恵子 宮崎 俊一郎	13111059	13111021		
10	新田 静江 中川 泰弥	13111012	13111029	13111060	
11	足立 智孝	13111064	13111001		
12	新居 富士美	13111014	13111031	13111048	
13	工藤 由美	13111015	13111079	13111039	
14	栗栖 千幸	13111016	13111033	13111067	
15	佐久間 夕美子	13111017	13111034	13111035	
16	金澤 貴子	13111052	13111069	13111076	
17	有家 香	13111053	13111070		
18	松丸 直美	13111054	13111071	13111065	
19	鶴沢 淳子	13111061	13111078	13111066	
20	高橋 道明	13111045	13111062	13111050	
21	袖山 香世子	13111046	13111063	13111068	
22	太田 知子 小坂 玲音	13111056	13111072	13111073	
23	平山 香代子	13111057	13111075	13111077	
24	遠藤 寛子	13111013	13111030	13111055	
25	宮城 孝満	13111011	13111028	13111004	
26	中島 洋一	13111005	13111022		
27	吉野 妙子	13111032	13111049	13111058	
28	古賀 雄二	13111023	13111051		

4年生

学年主任: 吉川 一枝

	テューター名	学籍番号		
	1	宮本 眞巳 鈴木 玲子	12111019	12111082
2	大石 昌也	12111038	12111070	12111005
3	真野 響子	12111039	12111057	12111022
4	佐藤 真由美	12111006	12111023	
5	久保 幸代	12111042	12111001	
6	渡邊 八重子	12111027	12111044	12111078
7	米林 喜男	12111011	12111074	
8	深谷 智恵子 宮崎 俊一郎	12111029	12111063	12111036
9	新田 静江 中川 泰弥	12111030	12111047	12111018
10	足立 智孝	12111013	12111031	12111048
11	新居 富士美	12111049	12111059	12111056
12	工藤 由美	12111015	12111033	12111050
13	栗栖 千幸	12111016	12111034	
14	佐久間 夕美子	12111017	12111035	12111052
15	金澤 貴子	12111053	12111085	12111077
16	有家 香	12111037	12111054	12111060
17	松丸 直美	12111055	12111072	12111061
18	鶴沢 淳子	12111045	12111062	12111065
19	高橋 道明	12111046	12111080	12111066
20	柚山 香世子	12111064	12111081	12111067
21	太田 知子 小坂 玲音	12111040	12111073	12111068
22	平山 香代子	12111041	12111058	12111076
23	遠藤 寛子	12111010	12111028	12111012
24	宮城 孝満	12111002	12111043	12111014
25	中島 洋一	12111009	12111032	12111069
26	吉野 妙子	12111003	12111020	
27	古賀 雄二	12111007	12111024	12111008

2-4. 単位認定、卒業認定等

1) 卒業認定・学位授与

学則に基づき、4年間本学に在籍し、127単位以上を修得した者に対し、教務・カリキュラム委員会で候補者を選定した後、教授会で審議し、教授会の意見を参考にして学長が卒業を認定する。また学位は、学則及び学位規則に基づき、教授会で審議し教授会の意見を参考に学長が卒業を認めた者に、学士（看護学）の学位を授与している。平成27年度は、76名の学生に修了認定を行い、学士（看護学）の学位を授与した。

2) GPA等の活用状況

4年間の履修終了時点において、本学独自のGPA類似の成績評定平均値を用いて順位を確定し、学位授与式における卒業生表彰の対象者選定に活用した。卒業生表彰の詳細は、下記のとおり。

千葉県知事賞	GPA（仮）91.6点
亀田医療大学学長賞	GPA（仮）89.2点
鴨川ロータリークラブ会長賞	GPA（仮）88.6点
日本私立看護系大学協会会長表彰	GPA（仮）87.2点

2-5. キャリアガイダンス

キャリアに関するガイダンスとして、進路支援委員会による4年生ガイダンスで、①国家試験準備について、②亀田メディカルセンター主催のガイダンスで就職試験について、③業者による国家試験対策説明会を実施した。また、年間を通じて各チューターによる進路・就職相談がおこなわれている。また、業者による国家試験模擬試験を6回と学内教員による模擬試験を5回行うとともに、模擬試験結果に基づくチューターによる個別指導を行っている。更に、専任教員による弱点科目の補講や特別講義を実施した。

その結果、平成27年度卒業生数は76名、卒業生全員が看護師国家試験を受験し、うち74名が合格（合格率97.4%）、となった。これは本年度の全国平均よりも高い結果であった。

なお、卒業生の進路（平成28年4月1日現在）は、就職70名（千葉県内54名（全員亀田総合病院）、県外16名（東京12名、神奈川・埼玉・栃木・沖縄各1名）、進学4名（大学院（助産学）1名、亀田医療技術専門学校助産学科3名）、その他2名となった。

2-6. 教育目的の達成状況の評価とフィードバック

1) 9つの必須要素についての達成

9つの必須要素（Ⅰ：教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅱ：質の高いケアを実践するためのリーダーシップ能力、Ⅲ：根拠に基づいた看護実践能力、Ⅳ：テクノロジーを効果的に活用する能力、Ⅴ：多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅵ：ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力、Ⅶ：国際的視野の育成と地域貢献能力、Ⅷ：生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力、Ⅸ：あらゆる対象に向けた包括的な看護実践能力）からなる看護実践能力評価票を作成し評価した。平成24年入学生の結果について以下の表に示すとおりである。

1：できない、2：支援があればできる、3：できるの3段階で評価した。その結果、必須要素の評価が高かったのは、ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力の「感染予防行動がとれる」(98.7%)であった。また、「看護の対象者に愛と尊厳をもって接することができる」(97.4%)、「看護の対象者を取り巻く人々と信頼関係を築ける」(93.4%)、「倫理観と責任感をもって物事に対応できる」(92.1%)と、必須要素の教養教育で培う普遍的基礎能力の3項目において高い傾向を示した。低く評価した必須要素は、国際的視野の育成と地域貢献能力で、「文化的背景の異なる対象者への看護を実践できる」(35.5%)、「文化背景画が異なる人とコミュニケーションがはかれる」(47.4)の2項目であった。

あらゆる対象に向けた包括的な看護実践能力に対する評価は、73%～54%であった。4項目の中で「急激な健康破綻に直面している対象者・家族に看護が実践できる」(53.9%)が低い傾向にあった。

9つの必須学習要素に関する評価について、各学年が学年ごとにその成長経過を期末評価として行うことになっている。このことについては、これまでの4年間の経過から、毎年一定の評価項目を用いて確認する方法であることが、未習及び、既習項目においても理解が深まることによる変化が見えにくい等の問題が顕在化してきており、今後の検討が必要な時期にある。

別表：平成24年度入学生看護実践能力習得度評価結果

I. 教養教育で培う普遍的基礎的能力		選択肢	1	2	3
1. 看護の対象者に愛と尊敬をもって接することができる	人(%)	0	0.0	7	9.5
2. 看護の対象者をとりまく人々(家族など)と信頼関係を築ける	人(%)	0	0.0	22	29.7
3. 倫理観と責任感をもって物事に対応できる	人(%)	1	1.4	11	14.9
4. 物事を論理的にとらえ、分析できる	人(%)	0	0.0	46	62.2
II. 質の高いケアを実践するためのリーダーシップ能力		選択肢	1	2	3
1. 1. 質の高い医療サービス提供のためのリーダーシップについて表現できる	人(%)	7	9.5	43	58.1
2. 2. リーダーシップの発揮を目指し、安全で質の高い看護を実践できる	人(%)	6	8.1	56	75.7
III. 根拠に基づいた看護実践能力		選択肢	1	2	3
1. 対象者・家族を包括的にアセスメントできる	人(%)	0	0.0	31	41.9
2. 対象者・家族の健康問題や生活課題と看護目標を記載できる	人(%)	0	0.0	34	45.9
3. 科学的知識やエビデンスを探索して看護計画を立案できる	人(%)	1	1.4	48	64.9
4. 実施した看護を論理的に評価できる	人(%)	0	0.0	50	67.6
IV. テクノロジーを効果的に活用する能力		選択肢	1	2	3
1. 医療情報を収集し、活用できる	人(%)	0	0.0	29	39.2
2. 医療機器を看護実践に活用できる	人(%)	7	9.5	47	63.5
V. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力		選択肢	1	2	3
1. 多職種とコミュニケーションがとれる	人(%)	2	2.7	26	35.1
2. 対象者への医療サービス提供のために、多職種と協働できる	人(%)	4	5.4	35	47.3
3. 医療安全を保持するために、多職種と連携できる	人(%)	3	4.1	35	47.3
VI. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力		選択肢	1	2	3
1. 自己のヘルスプロモーション(健康増進と疾病予防にむけた活動)を実行できる	人(%)	4	5.4	14	18.9
2. ヘルスプロモーション(健康増進と疾病予防にむけた活動)を指導できる	人(%)	1	1.4	44	59.5
3. 感染予防のための行動がとれる	人(%)	0	0.0	6	8.1
VII. 国際的な視野の育成と地域貢献能力		選択肢	1	2	3
1. 文化背景の異なる人とコミュニケーションをはかれる	人(%)	7	9.5	37	50.0
2. 文化的背景の異なる対象者への看護を実践できる	人(%)	18	25.0	43	59.7
3. 国際的な視野をもって健康課題を捉えられる	人(%)	6	8.1	45	60.8
4. 地域における特性と健康課題を探索できる	人(%)	6	8.1	43	58.1
VIII. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力		選択肢	1	2	3
1. 専門職を目指す学生である自己の課題を述べられる	人(%)	1	1.4	19	25.7
2. 専門性を向上させるための研修会・講習会・学会などに自主的に参加する	人(%)	19	25.7	37	50.0
IX. あらゆる対象者に向けた包括的な看護実践能力		選択肢	1	2	3
1. (新生児～高齢者といった)多様な年齢層の対象者に看護を実践できる	人(%)	0	0.0	36	48.6
2. (健康増進～終末期など)多様な健康レベルにある対象者に看護を実践できる	人(%)	1	1.4	44	59.5
3. 急激な健康破綻に直面している対象者・家族に看護を実践できる	人(%)	3	4.1	53	71.6
4. 慢性的な健康課題を有する対象者・家族に看護を実践できる	人(%)	0	0.0	43	58.1

2) 授業評価について

(1) 学生による授業評価

前期・後期の科目の終了ごとに、学生による授業評価アンケートを実施し、授業の評価及び、改善の資料としている。全体的に学生の事前学習となる予習や学生自身の授業に対する努力は、低得点の傾向にある。数値化できる評価得点以外に、自由記述欄には具体的な学生の意見や提案が記載され、次回に向けた授業改善の具体策に生かされている。

(2) 教員による授業評価

上記の1)の学生による授業評価の結果に基づき、教員各自が実施した科目ごとに、授業を見直す評価を行っている。毎年の学期末ごとにそれを提出し、1年間の全科目について、1冊のファイル（教員による授業評価）にまとめて、それぞれの教員がどのように授業を行い、どのような努力をしているか、教員相互に閲覧し、改善に向けた努力をできる仕組みである。

27年度からは、学生の評価平均点を明示する記載とし、それに応じた評価を行うこととなった。学生に対しても教員の努力が見える資料として、活用されることを期待したい。

非常勤講師に対しても同様に、学生の授業評価の結果に基づき、授業の見直す評価を依頼しているが、評価に協力している非常勤講師は約1/3程度である。今後は、非常勤講師に対しても統一した一貫性のある教育を目指す手段として強化していきたい。

2-7. 学生サービス

1) 就学支援

就学支援について、医療法人鉄蕉会、日本学生支援機構、千葉県等の奨学金の相談や貸与申請手続きを行った。

学修および生活支援について、学内においては個々の学生に応じた、チューターによるきめ細かな支援を行い、心の健康、保健衛生等の相談に適切に対応するため、学外スクールカウンセラーを配置する等、各種相談体制をとった。

また、防犯・交通安全等について、鴨川警察署に依頼し1年生全員対象の研修を行った。さらに、亀田総合病院産婦人科医師による性感染症予防に関する講演会を1年生対象に実施した。学生のアルバイトについては、就学に支障を来さないような求人先を選定し、学内掲示する等の紹介を行っている。

一方、自宅通学困難な平成26年度入学生の住まいを確保するため優良物件の一括借上げに努めたが、十分な数の確保が困難であったため、ワンルームタイプアパート2棟22室を直営整備するとともに、既存1棟について室数の借り増しを行った。加えて平成27年度入学生用として5棟44室を一括借上げとした。

実習の開始時刻が通常授業よりも早いため、遠方より通学する学生の便宜を図り、本学学生専用住宅の空室を遠方から通学する学生のために、実習期間中に限り短期貸出を行った。貸出件数は3件であった。

2) 健康管理

健康管理については保健室に保健師を配置し、健康診断結果の評価・追跡を行い、学生の健康の増進を図った。さらに、通常健康診断に加えて感染予防対策として、感染症に関する教育環境整備、ワクチン接種を計画的に実施した。

平成27年度保健室利用状況（月別）

(1) 保健室ベッド使用状況

月	件数(1・2・3・4年)	症状
4	1(0・1・0・0)	頭痛
5	5(0・2・2・1)	気分不快・頭痛・息苦しい等
6	5(1・1・2・1)	生理痛・吐気・腹痛
7	3(0・0・2・1)	気分不快・生理痛・倦怠感
8	1(0・0・1・0)	吐気
9	1(0・0・0・0)(1)職員	発熱
10	1(0・1・0・0)	体調不良
11	1(0・1・0・0)	体調不良
12	1(0・0・1・0)	体調不良
1	1(1・0・0・0)	腹痛・吐気
2	0(0・0・0・0)	
3	0(0・0・0・0)	
合計	20	—

(2) 救急箱等使用物品状況 (ベッド利用者も含む)

月	件数 (1・2・3・4年)	症状	使用物品
4	7(1・2・3・0) 1職員	切創・捻挫・咽頭痛他	絆創膏・消毒液・ガーゼ・消毒綿・体温計・湿布他
5	7(1・3・1・2)	体熱感・火傷・捻挫・咽頭痛他	体温計・消毒綿・滅菌ガーゼ・シリコンテープ・湿布他
6	14(3・2・7・2)	靴擦れ・体熱感・擦過傷・切傷・咳・打撲他	湿布・消毒液・滅菌ガーゼ・シリコンテープ・絆創膏 体温計・消毒綿
7	7(1・1・4・1)	擦過症・切傷・靴擦れ・棘他	消毒液・滅菌ガーゼ・シリコンテープ・絆創膏・マスク
8	1(0・0・1・0)	生理痛	カイロ
9	0(0・0・0・0)		
10	8(3・1・1・1) 2職員	体温計4・筋肉の違和感・擦過傷	体温計・湿布・絆創膏
11	6(1・4・0・1)	発熱・打撲・擦過傷・棘	体温計・消毒・絆創膏・湿布・処置用シート
12	4(0・2・0・1) 1不明	湿疹・擦過傷・切傷・挫症	消毒液・絆創膏・湿布・滅菌撮子
1	3(1・1・0・1)	発熱・手指炎症	消毒液・体温計
2	4(0・3・0・0) 1職員	発熱・頭痛・手指炎症	体温計・消毒液・絆創膏・冷却シート
3	0(0・0・0・0)		
合計	61	—	—

*H27年6月より保健室の施錠を開放。

3) 課外活動への支援

学生の自主的活動であるスポーツ、文化等の課外活動のために、屋内運動場、武道館、学生会館に部室を延べ13室の整備しているほか、学生会館に自治会室を設けている。

なお、学生の課外活動の部・サークル等は平成27年度末現在、15団体となっている。

また、学生自治会による大学祭の開催(平成27年10月31～11月1日)に際し、学生後援会から運営費の支援を頂き、学生主導の下、教職員・亀田グループ職員・地域住民の参加を得て、盛況裡に終えた。

4) 学生の意見をくみ上げる制度

学生が日頃感じている大学に対する意見、要望等を聴取し、今後の学生生活の改善の参考に資するため、VOICEボックスを設置(於:大学本館3階ラウンジ・4階ラウンジ・学生食堂)している。

回収された意見等は、関係部署に照会し学生委員会で審議し、必要に応じて教授会に諮る。意見等の回答については、学生掲示板に掲示する。平成27年度のVOICEボックス投稿については48件あり、その内容は授業方法・実習交通費の負担等に関する25件、施設設備関連14件、学生生活関連9件であった。教育関係の意見については担当教員との相談を行い、実習交通費の負担等について改善を行った。また、学生生活に対する問題別の対処に努めた。詳細件数は下記のとおり。

施設設備 (14)

○大学施設 9 ○学校のマイクロバス 5

教育関連 (25)

○実習の交通費 9
○地域の授業 7 ○授業・教室環境 5 ○模試 2 ○その他授業関係 1

○カリキュラム 1

学生生活 (9)

○大学案内について 6

○アルバイト 1

○車での通学について 1

○奨学金 1

5) 学生満足度調査分析結果

学生委員会の活動として、全学生を対象とした隔年の生活満足度調査を行っているが、平成27年度実施の結果概要は以下の通りであった。

(1) 学生支援について

チューター制については80%の学生が満足と回答していたが、自由記載においてはさまざまな意見があり、教員の対応、教員との関係性、相談する機会の少なさ等についての記載があった。他の学生支援（オフィスアワー、学生カウンセラー、ハラスメント相談員）については、制度の詳細や受付窓口がわからないなどの意見があり、これらについての情報提供の方法を工夫する必要性が示唆された。

(2) 施設・設備について

学内施設に関しては満足度が高く、概ね満足している様子であった。しかし、自習室など学生共有スペースでの利用マナー（飲食・話し声）が悪いことが挙げられていた。

設備に関しては、備品の追加（図書のバリエーション・蔵書数、シュレッダー、自習室のプリンター・パソコン、軽食用自販機など）を求める声があった。またWi-Fiに利用制限があり、気軽に使えない事やロッカールームでシャワーが使えない事に対する苦情があった。

屋外施設では、駐輪場に対する満足度が最も低く、駐輪可能数が学生数に見合った設置になっているのか、運用状況を確認し対応していく必要がある。

(3) 大学生活全般について

総合的な満足度について満足と回答した学生は79%であった。しかし、カリキュラム編成、履修登録、成績開示、ガイダンスに関する意見や、奨学金などの個別相談窓口設置の要望がみられた。

以上の学生の意見については、大学の管理運営部門の課題として、今後の検討が必要である。

2-8. 教員の配置・職能開発等

1) 教員組織

(1) 教員組織、運営体制

教育研究に関する重要な事項を審議する教授会と、具体的な諸課題について検討・調整を行う各種委員会（管理運営、教務、学生支援、研究支援関連の 14 委員会）を設置し、大学の組織的な運営体制によって、学長のリーダーシップの下で大学運営を行っている。

(2) 教員配置についての大学設置基準と現状との対比表(2016.3.31 現在)

		専任教員数					助手	設置基準上必要専任教員数	設置基準上必要専任教授数
		教授	准教授	講師	助教	計			
看護学部	看護学科	10	5	8	10	33	4	12	6
大学全体の収容定員に応じて定める専任教員数								7	4
合計		10	5	8	10	33	4	19	10

2) FD(SD)活動

(1) AC 対応のための組織的な FD(SD)計画の立案と実施

設置計画履行状況調査における是正意見である日々の教育活動の点検、学生の学習成果につながる適切な FD 活動への取り組みが、最重要課題であった。そこで年間 FD 計画を作成し、カリキュラムマップの作成、授業展開研修会の開催など、全教員の協力・参加を得て FD に取り組んだことで、8月の設置審のヒアリングに対処でき、2月の AC において評価された。

(2) FD(SD)委員会としての独自の活動

学内の教員及び職員に対して、①能力向上を目的とした各種研修会を実施、②運営のサポート、統括を行うとともに、「FD とは何か」の講演会と 2つの研修会を実施した。この活動を通してすべてのメンバーが FD 活動の重要性を認識し、各委員の役割分担の明確化と自主的な企画・運営に向けての体制づくりが整備され、この活動自体が FD(SD)になった。

i. 実習指導者研修会 (全 8 回)

研修生の研修目標の達成度（アンケート結果より）について、すべての項目において「十分できた」「できた」が 90%以上であった。

H28 年度からは、より現場のニーズに沿ったプログラムにするため、看護部との共催で実施することとなり、既に WG が発足し企画が進行している。

ii. 授業展開研修会 (全 11 回)

大学設置審の改善意見を踏まえ、年間を通じ授業展開研修会等を実施し、教員の能力向上に取り組んだ。学生から評価の高い教員の授業参観を実施したが、その評価および授業評価の在り方については、今後、副学長（教務委員会／評価委員会）の主導のもとに、今後の方針が報告される予定である。

2-9. 教育環境の整備

1) 図書館

(1) 概要

総面積	748.7㎡(開架書庫:568.25㎡、閉架書庫:58.2㎡)	
開架書庫収蔵能力	約22,000冊	
閲覧スペース	70席	
設備	グループワーク室	3室(各12席)
	情報検索コーナー	10席(PC10台)
	AVコーナー	6席(DVD/VHSプレーヤー6台)
	ブラウジングコーナー	7席
	その他	書架ベンチ長椅子4台、書架椅子6席、和スペース7畳
開館時間	平日	9時～21時(試行延長)
	土・短縮開館	9時～17時
運用	館長	米林喜男(看護学部基礎:教授)
	スタッフ	専任1名: 立野幸子(学務:図書館司書) 事務補佐員3名: 吉野千春、日方美幸、渡邊博子

亀田医療大学図書館は亀田医療大学開学(2012年4月)と同時に設置され、看護単科大学の図書館として資料収集、運用を整備してきた。図書館は本館2階に位置しており、総面積は748.7㎡ある。閲覧席70席の他、グループワーク室、情報検索コーナー、AVコーナー、ブラウジングコーナーを備えている。

開館時間は利用者の要望を踏まえて2015年度に9:00-21:00(通常開館時平日)を延長試行し、夜間も学習・研究活動ができる体制づくりを検討している。

図書館の蔵書は、国内外の看護学を中心とした資料を系統的に収集している。2015年度には図書が約13,500冊、雑誌が約140タイトル、視聴覚資料が約350タイトルを所蔵している。

図書館システムは「情報館(ブレインテック)」を採用し、OPAC(オンライン蔵書目録)検索はWEB公開で学外からもアクセスができる。また、データベース、電子ジャーナルは医中誌、メディカルオンライン、最新看護索引Web、CINAHL with Full Text、The Cochrane Library等を導入している。国立国会図書館デジタルコレクションやNII-REOの機関登録をし、医療以外の分野でもオンライン情報を提供し、幅広い研究に活用できる情報環境づくりを目指している。

職員体制は専任職員1名(司書)と事務補佐員3名(内司書1名)で運営している。日本看護図書館協会や私立大学図書館協会の会員館として、各種研修に参加をし、医療系図書館員として利用者にサービスを還元できるよう専門知識やスキルを養っている。国立情報学研究所のNACSIS-CAT/ILLの参加館として、総合目録データベースの共同構築や、文献複写・現物貸借のサービスにも対応している。その他、法人、グループとして亀田医療技術専門学校、亀田総合病院の各図書室と相互利用の体制を整えており、鴨川市立図書館との地域連携に向けての準備も進めている。

(2) 統計

◇利用統計

()内の数値は前年度数

開館 日数	入館者数			貸出冊数			ILL(相互利用)		レファ レンス	GW室	複写		
	学内	学外		学生	教職員	学外	依頼	受付			カラー	白黒	
261 (256)	37,574 (29,604)	68 (63)	37,642 (29,667)	4,141 (3,103)	947 (1,046)	47 (43)	5135 (4,192)	342 (109)	19 (11)	586 (561)	502 (517)	9,450 (4,903)	35,438 (19,400)

※入館者数の学内には見学者も含む。

◇受入資料

()内の数値は前年度数

区分	図書			雑誌タイトル			視聴覚	新聞	電子ジャーナル		データ ベース
	和書	洋書		和雑誌	洋雑誌				国内	国外	
購入	642 (780)	1 (1)	643 (781)	86 (90)	0 (8)	86 (98)	1 (43)	5 (6)	1,736 (1,661)	740 (782)	4 (4)
寄贈他	569 (810)	223 (200)	792 (1,010)	18 (25)	0 (0)	18 (25)	51 (6)	1 (1)	-	-	-
合計	1,211 (1,590)	224 (201)	1,435 (1,791)	104 (115)	0 (8)	104 (123)	52 (49)	6 (7)	1,736 (1,661)	740 (782)	4 (4)

※視聴覚資料の受入数は単体のみとし、本体のある付録資料は除く。

※電子ジャーナルは出版社(学協会含む)、アグリゲータ(複数の出版社の電子ジャーナルを提供する業者)を含む。

また出版社、業者の所在により国内、国外とする。機関登録で無償提供されるものは含まず。

◇除籍資料

	和	洋	合計
図書	1	0	1
雑誌 タイトル	1	0	1

◇蔵書数/タイトル数

()内の数値は前年度数

図書			雑誌タイトル			視聴覚
和書	洋書		和雑誌	洋雑誌		
12,314 (11,104)	1,278 (1,054)	13,592 (12,158)	128 (124)	15 (15)	143 (139)	353 (301)

2) 校地校舎面積

校地は、本学の収容定員が 320 名であるため、大学設置基準上 3,200 m²必要とされている。平成 28 年 3 月 31 日現在で、本学は 19,792 m² (運動場含む) を校地として使用しており、大学設置基準を満たしている。

校舎は、本学の収容定員が 320 名で 400 名以下であるため、大学設置基準上 4,561.2 m²必要とされている。平成 28 年 3 月 31 日現在で、本学は 9,768 m²を校舎として使用しており、大学設置基準を満たしている。

3. 経営・管理と財務

3-1. 業務執行体制

1) 教員組織、運営体制

教育研究に関する重要な事項を審議する教授会と、具体的な諸課題について検討・調整を行う各種委員会（管理運営、教務、学生支援、研究支援関連の 14 委員会）を設置し、大学の組織的な運営体制により、学長のリーダーシップの下で大学運営を行った。

教授会、各種委員会等は、毎月定例又は臨時に開催し、運営、教育研究上の諸課題に対応した。

また、設置財源変更協議や AC 審査不備等を改善すべく、管理運営体制について以下の見直しを行い、平成 27 年度から適用した。

① 事務体制の見直し

総務、財務、学務の 3 課の業務内容を見直し、申請に関する分野の業務整理を実施。また、独立したチェック体制から拮抗的なチェック機能が働くよう改変した。

② 組織の改編

経営と管理運営の齟齬をなくし、組織全体の方向性及び情報の共有化を図る為、理事長に情報が集約される体制の構築、教授会規程の見直しを行った。

③ 学長補佐体制の強化（副学長の職務）

副学長の職務に校務をつかさどる権限を付与することにより、学長の職務の軽減を図りつつ学長の統督業務体制を強化した。

④ 学長補佐体制の強化（学長特命補佐の新設）

学長が指示する特定業務に対応する学長特命補佐を新設することにより、きめ細やかな対応及び情報の収集を行い、学長がより適切な判断の下で大学運営を行える体制とした。

⑤ 大学運営会議の設置

大学運営に関する重要事項の連絡、調整及び協議を行うため、大学運営会議を設置し、大学運営における重要な意思決定を十分に検討できる体制とした。

⑥ FD (SD) 活動の強化

法人全教職員の FD(SD)強化。初回は専門家による「AC 期間における遵守事項について」全教職員参加の講習会を複数回開催した。詳細については下記参照。

3-2. 財務基盤と収支

財務基盤と収支（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対象表）の概要は以下のとおりである。なお、より詳細な内容については、事業報告書及び財務計算書類（HPで公表）のとおり。

1) 資金収支計算書

（資金収入）

主な資金収入は、学生生徒納付金収入 529 百万円、特別寄付金収入 150 百万円、授業料等前受金収入 268 百万円、短期借入金収入 80 百万円となった。これに伴い、前年度繰越支払資金 253 百万円を収入の部合計は、1,035 百万円（対予算 85 百万円の減）となった。これは、平成 27 年度決算より補助活動収支を総額表示から純額表示に変更（△72 百万円）したことに伴うものである。

（資金支出）

主な資金支出は、教職員人件費支出 443 百万円（教員 339 百万円、職員 103 百万円、退職金 1 百万円）、教育研究経費支出 122 百万円、管理経費 42 百万円、借入金返済支出 98 百万円（うち短期借入金返済 80 百万円）である。

なお大項目内での小科目においては、予算対比過不足を生じたが、大項目においては設備関係支出及び経過勘定を除く予算の範囲内となった。

教員研究費は 1,496 万円（専任教員 1,337 万円、学長裁量経費 148 万円、臨床支援研究室 11 万円）となった（別添資料参照）。各教員の執行状況は別添資料のとおりであるが、バラツキが見受けられ、使途も各様となっている。若手教員支援の観点から、学長裁量経費からの特別配分も講じているが若手教員の中にも執行残額が基礎配分額の 50%を超える者が見受けられた。

（資産計上所要額 151 万円は設備関係支出に計上。このため、設備関係支出が当初予算額を超えることとなった。なお、平成 27 年度基礎配分額（教授 50 万円、准教授 42 万円、講師 36 万円、助教 30 万円、助手 28 万円）の 50%相当額（千円未満切り捨て）を上限として 233 万円、28 年度配分額の前倒し執行額（上限 5 万円（千円未満切り捨て）△13 万円、学長裁量経費執行残の一部 179 万円の計、400 万円は平成 28 年度に繰越すこととし、追って、平成 28 年度収支補正予算に反映。）

2) 事業活動収支計算書

学校法人会計基準の改正に伴い、従前の消費支出計算書は「事業活動収支計算書」となった。

事業活動収支計算書は、教育活動収支、教育活動外収支、特別収支に大別され、それぞれは、収入、支出、収支差額から構成される。

また、それぞれの収支差額の合計を「基本金組入前当年度収支差額」といい、これから「基本金組入額合計」を控除したものを「当年度収支差額」といい、学校法人の健全な運営には「基本金組入前当年度収支差額」の黒字はもとより、「当年度収支差額」の黒字化が望ましいとされている。

なお、「当年度収支差額」に「前年度繰越収支差額」を加えた額が「翌年度繰越収支差額」と称している。

「事業活動収支計算書」は民間企業における「損益計算書」に相当し、「教育活動収支差額」及び「教育活動外収支差額」の計を「経常収支差額」といい、「経常収支差額」は民間企業における経常損益に、「基本金組入前当年度収支差額」は「当年度損益」に相当する。

当法人の「基本金組入前当年度収支差額」及び「当年度収支差額」は、このところマイナスが続いており、当該収支差額の黒字化が喫緊の課題となっている。それには、基礎的収入である学生生徒等納付金収入の確実な確保（志願倍率の向上、質の高い学生の確保、定員に即した卒業生数の確保）、更なる特別寄付金の確保、経常費補助金の確保、加えて競争的資金の確保に努めるとともに、固定的支出である人件費や物件費の抑制、学生満足度の高い教育等に努める必要がある、こうした観点からの認識共有、中期計画の策定等が緊要である。

（亀田医療大学は、完成年度の経過に伴い、平成 28 年度から経常費補助の対象となる。）

(参考：収支差額の推移)

(単位：百万円)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
基本金組入前当年度収支差額	289	△73	△81	△29
基本金組入額合計	△752	△492	△344	△138
当年度収支差額	△462	△566	△426	△167
前年度繰越収支差額	875	413	△153	△579
翌年度繰越収支差額	413	△153	△579	△746

(教育活動収支)

主な収入は、学生生徒納付金等 529 百万円、寄付金収入 134 百万円（うち特別寄付金 130 百万円、現物寄付金 4 百万円）等、合計 679 百万円となった。

主な支出は、人件費 452 百万円、教育研究経費 245 百万円（うち減価償却費 124 百万円(50.5%)）、管理経費支出 58 百万円等、合計 756 百万円となった。

この結果、教育活動収支差額は、76 百万円の赤字となった。

その主たる要因は減価償却費 140 百万円であるが、減価償却費は施設設備の老朽化に備えて内部留保するものであり、教育活動収支差額の黒字化が当面の基本的経営課題と思料される。

(教育活動外収支)

主な収入（受取利息等）から主な支出（借入金等利息等）6 百万円を控除した、教育活動外収支差額は 6 百万円の赤字となった。

(経常収支)

この結果、教育活動収支差額に教育活動外収支差額を加えた経常収支は 83 百万円の赤字となった。

(特別収支)

主な事業活動収入は施設設備寄付金 20 百万円となった。一方、主な事業活動支出は資産処分差額であるが軽微であったため、特別収支差額は 20 百万円の黒字となった。

(基本金組入前当年度収支差額等)

基本金組入前当年度収支差額（各収支差額の計）は、64 百万円の赤字となった。

一方、基本金組入額は、46 百万円、基本金組入額を控除した「当年度収支差額」は、110 百万円の赤字となった。

(第 1 号基本金組入れは、過年度の施設設備整備に係る借入金返済相当額及び未払金相当額並びに当年度施設設備整備に係る支払金相当額。)

「当年度収支差額」に「前年度繰越収支差額△476 百万円」を加えた、「翌年度繰越収支差額」は△587 百万円となり、悪化が進んだ。

これらの結果、平成 27 年度における事業活動収入計は 698 百万円、事業活動支出計は 762 百万円となった。

事業活動収入 698 百万円に占める寄付金収入 150 百万円（特別寄付金収入 130 百万円、施設設備寄付金 20 百万円）の割合は 21.5%と高く、引き続き、多額の寄付金に依拠しているのが本学の大きな特徴となっている。

(財務比率)

経常経費依存率等の財務比率は以下のとおり

事業活動収支関連	算出方法	部門	H27年度	H26年度	H26年度保健系単一学部平均
経常経費依存率	経常経費÷学生生徒納付金	法人全体	151.8%	156.9%	193.2%
人件費依存率	人件費÷学生生徒納付金	法人全体	88.2%	110.3%	100.1%
		大学	85.5%		
		専門助産	150.0%		
		専門看護	82.1%		
教育研究経費構成率	教育研究費÷経常経費	法人全体	32.0%	31.3%	32.7%
		大学	32.2%		
		専門助産	38.1%		
		専門看護	32.8%		
学生生徒納付金比率	学生生徒納付金÷経常収入	法人全体	72.1%	53.9%	32.6%
		大学	77.9%		
		専門助産	34.9%		
		専門看護	70.8%		
基本金組入比率	基本金組入額÷経常収入	法人全体	13.4%	31.5%	39.0%
人件費比率	人件費÷経常収入	法人全体	63.6%	59.4%	32.7%
借入金等利息比率	借入金÷経常収入	法人全体	1.2%	1.1%	0.1%

※ 経常収支差額比率

法人全体△9.5% (経常収支差額△95百万円÷経常収入1,006百万円)

大学△12.2% (経常収支差額△83百万円÷経常収入679百万円)

(経常収支差額が計上収入全体の何%にあたるかを見る比率。学校法人を永続的に維持するためには、校地校舎等教育研究に必要な資産相当額を維持すべきものとして、基本金を事業活動収入の中から確保しなければならない。したがって、基本金組入額相当の経常収支差額の黒字が望ましい。この比率が10%以上を安定的に確保できれば、基本金組入後の事業活動収支均衡を達成できる可能性が高いため、10%が良好と判断する目安と考えられる。・・・学校法人の経営分析(同分館出版(有限責任監査法人トーマツ編)91頁)。これにしたがえば、経常収支差額が1億円程度のプラスとなることが望ましく、2億円程度の収支改善が望ましい。)

※ 学生一人足り経常経費等

	学生一人当たり				全体			
	納付金 (納付金÷収容人員) (千円)	補助金 (補助金÷収容人員) (千円)	経常経費 (経常経費÷収容人員) (千円)	不足額 (千円)	収容人員 (人)	納付金 (百万円)	補助金 (百万円)	経常経費 (百万円)
大学部門	1,579		2,274	△695	335	529		762
専門助産	1,240	731	3,366	△1,395	16	20	12	54
専門看護	650	102	968	△216	270	175	28	261

学生一人当たり不足額 = (納付金 + 補助金) △ 経常経費
(不足事由等)

- ・ 大学は、人件費所要額及び人件費比率が相対的に高く、その抑制が必要と思料。
- ・ 助産学科は、相対的に採算性が悪く、(大学院との併存を念頭に) 収入増方策の検討が必要と思料。
- ・ 看護学科は、今後の老朽化施設設備改修を踏まえた収入増方策の検討が必要と思料。

3) 平成27年度貸借対照表

資産の部については、固定資産は2,464百万円と対前年度129百万円の減となった。

主な固定資産は、有形固定資産2,457百万円(128百万円の減(減価償却等△140百万円、施設設備整備12百万円))、その他固定資産7百万円(△1百万円)となった。

一方、流動資産は305百万円（内、現預金298百万円）となり対前年度比44百万円の増となった。これらの結果、資産総額は2,770百万円と対前年度比△85百万円となった。

負債の部は、固定負債は379百万円（長期借入金343百万円、退職給与引当金32百万円等）と対前年度比19百万円の減となった。

一方、流動負債342百万円（短期借入金18百万円、未払金36百万円、前受金（学生生徒納付金等）268百万円等）と対前年度7百万円の減となった。これらの結果、負債の部合計は721百万円と対前年度比21百万円減となった。

基本金の部は、第1号基本金は2,581百万円（対前年度40百万円増）、第4号基本金は55百万円（対前年度7百万円増）、合計2,636百万円（対前年度47百万円の増）となった。

この結果、基本金の部合計は2,636百万円、消費収支差額の部合計は△587百万円、純資産（基本金の部2,636百万円及び消費収支差額△743百万円の計）は2,049百万円となった。

なお、補助活動収支（貸借対照表 注記8. 参照）では、補助活動収入（寄宿料等）75,112千円、補助活動支出（学生アパート賃料、保有寄宿舎（アパート）維持費等）69,051千円、純額6,061千円となっているが、損益上は、これに保有学生アパートの建築費用借入金・利息返済他6,272千円及び減価償却費4,492千円を控除すると4,986千円の赤字となっている。

（財務比率）

負債比率、自己資金構成比率、流動比率等の財務比率は以下のとおり。

貸借対照表関連	算出方法	H27年度	H26年度	H26年度保健系単 一学部平均
負債率	(総負債△前受金) ÷ 総資産	23.6%	24.1%	10.7%
※前受金を除く総負債に対する総資産の割合は低いほうが望ましく、学部等設置認可要件は25%未満とされている。				
自己資本構成比率	自己資金 ÷ 総資産	66.3%	66.0%	83.4%
流動比率	流動資産 ÷ 流動負債	98.5%	89.1%	223.1%
※短期的な資金繰り見通しを表す。100%以下では資金繰りが困難。				
固定長期適合率	固定資産 ÷ (自己資金+固定負債)	102.9%	101.6%	85.3%
※固定資産が自己資本と固定負債で賄われている割合。				
前受金保有比率	現金預金 ÷ 前受金	110.7%	99.6%	297.6%
※翌年度の帰属収入となる授業料等の前受金が翌年度繰越支い資金として当該年度に保有されているかをみる指数。100%未満の場合、翌年度の授業料等を先食いしている状態。				

3-3. 会計

平成28年5月19日開催理事会にて、監事監査報告がなされた。監事監査報告において、監査の結果、学校法人鉄蕉館の業務に関する決定及び執行は適切であり、計算書類すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び対策対照表並びに財産目録は、会計上簿の記載と合致し、その収支及び財産の状況を正しく示しており、業務又は財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないと認められた。

監査手法は、理事会及び評議員会並びに経営会議への出席、理事からの業務報告聴取、重要な資料閲覧並びに会計監査人と連携した計算書類の検討等とした。

4. 研究活動

1) 研究活動の推進

平成 27 年度科学研究費助成事業については、申請 22 件、採択 3 件、採択率 13.6%であり、専任教員全員の申請及び申請内容の吟味が課題となっている（平成 26 年度：申請 7 件、採択 1 件、採択率 14.3%、平成 28 年度：申請 21 件、採択 2 件、採択率 9.5%）。開学当初から比べると、申請件数には、増加がみられているが、採択率の向上が今後の課題である。27 年度現在の科研費による研究費適用者は、共同研究を含め 13 名となっている。

また、平成 25 年度に亀田医療大学総合研究所（所長は学長が兼任）を開設、研究所内に「臨床研究支援室」を設け室長（兼任）及び職員 1 名（非常勤）を置き活動を開始した。

なお、平成 27 年度末における客員研究員（医療法人鉄蕉会所属医師等）は、33 名となり科研費申請に取り組む等研究活動が活発化してきている。

2) 教育研究情報の発信

教育に関する情報は、カリキュラム及び授業内容をシラバス冊子として、年度初めに全ての学生・教職員に配布し、学生にはオリエンテーション時に周知を図った。また、各授業に対する学生の評価結果は、担当教員に届けるとともに、その概要をホームページに掲載した。また、各授業科目に対する担当教員自身の評価を「教員による授業評価」として冊子体にファイルし、全教員への配布と同時に、誰でもが閲覧できるように図書室に配架している。

研究情報については、各教員の 1 年間の研究活動を年報冊子にまとめ、全教員に配布するとともに、図書館に配架、供覧できるようにした。

その他、本学のホームページでは、受賞教員のニュース、本学主催の研修会開催等、事前事後のその都度にホームページで広報した。

5. 特徴的な活動

1) 地域連携他

- ① 地域連携室主催により、映画上映会「いっぺさ！鴨川シアター」の企画・運営を3回行い併せて165名の参加者を得た。また、市民講演会「ストレスを吹き飛ばせ」を実施し、30名の参加者を得た。
- ② 鴨川地域医療連携会議のメンバーとして、平成27年度の重点課題である地域医療連携における薬剤師との協働事業の企画・運営を行い、「鴨川くすり連絡簿」と題するパンフレットとDVDを作成し、28年度に向けた薬物療法への啓蒙活動を企画している。
- ③ 県立長狭高校の学校運営協議会に加わり、コミュニティスクールの活動、医療・福祉コースの開設を支援した。
- ④ 学内授業については、鴨川市福祉課地域ささえあい係と鴨川市老人クラブの協力を受けて高齢者看護学概論の「高齢者向け新体力測定」、鴨川市主催の高齢者看護援助論における「虐待防止の劇と講演会」と「認知症サポーター養成講座」など、地域連携のもとで実施した。
- ⑤ シーフエスタ、田原ふるさとフェスティバル等の地域行事に、学生及び教職員がボランティアとして参加した。リハビリテーション・ケア文化祭では、学生、教員が活動報告を行い、学生による報告が表彰を受けた。また、地域季刊誌（かもがわポータルマガジン）KamoZineの発行に学生・教員が編集員として加わっている。さらには、各種講演会の開催や、地域のスポーツ団体への運動施設貸し出しを積極的に行った。
- ⑥ 本学校地及び校舎の一部は鴨川市鴨川中学校の統廃合跡地を鴨川市から使用貸借（校地は平成23年4月1日から30年間、校舎（屋内体育館・実験室・格技棟）は5年間（更新可能））であることに鑑み、屋内体育館・格技棟を市内スポーツ団体等に一定の要件で貸与（一部有償）するとともに、学生会館ホール及び講義室等についても本学の業務に支障の無い範囲で一定の要件で後援会や学習会等主催者に有料（一部無料）貸出を行った。
ちなみに平成27年度の貸出件数は、延べ39件（スポーツ団体への定期貸は団体ごとに一定期間一括貸出）となっており、地域貢献に資することができた。
- ⑦ 鴨川市の避難防災訓練に参加し、災害時の避難場所として地域住民の避難受入れを行い、希望者には避難経路を案内した。

2) 国際化

- ① 3年生の必修科目「国際看護学」におけるシンガポール研修を3月1～5日に実施し、各学生が2ヶ所の病院において講義を受けるとともに、見学を実施した。これらを通じて、文化背景や特性の異なる対象者を理解し、提供する医療・看護サービスについて学習した。
- ② 国際交流委員会は、7月31日に鴨川市青少年交流事業として（米国）ウイスコンシン洲マニトワック市の高校生6名を受け入れ、キャンパスツアーと茶道部員によるお茶席に参加し、交流をはかった。1月28日、JENESYS2015 招へいプログラム（日本国際協力センター）として、ラオスの大学生20名と教員1名を受け入れ、キャンパスツアーと「わかめの会」メンバーの指導下でBLSと聴診を体験し交流がはかられた。2月23日文理開成高校からの要請で、日本語の研修を受けている56名の中国人中学生を亀田総合病院と本学で受け入れ、本学ではキャンパスツアーと乳幼児ケア・妊婦体験を実施した。

3) 大学院開設準備

27年度は、年度内の設置申請書の提出を目標として、具体的な科目の検討及び、カリキュラムの

構築に力を注いだ。文科省の数回の相談指導の結果、高齢者看護学・在宅看護学・小児看護学・精神看護学は、クロニックケア看護学としてまとめてひとつの領域を構成することとなった。これに伴い、看護管理学、医療倫理学、クリティカルケア看護学、クロニックケア看護学、ウィメンズヘルス看護学の5領域を柱とするカリキュラムとなった。この段階で、実践リーダー（クリティカルケア高度実践看護師）（従来のCNS）コースは、クリティカルケア看護学のための申請とすることになった。

また、設置申請の時期が当初の予定より、1年遅れての申請となったため、26年度に行ったニーズ調査に加えて、再確認の目的で8月に亀田総合病院勤務の看護師の大学院入学に対する興味・関心の再調査を行った。その結果においても前回同様の高いニーズを確認できたことから、上記5領域のカリキュラム内容で、28年3月に設置申請書を文部科学省に提出した。

6. 教員情報

惠美須 文枝

原著論文

- ・横地美那、惠美須文枝、柳沢理子、志村千鶴子(2015)：更年期症状で婦人科を受診している女性の体験 日本助産学会誌 9 (1) 59-68
- ・中田恵美、惠美須文枝、緒方京、下睦子(2016)：分娩介助実習を担当する臨床指導者の実態(第3報) 実習担当に対する意義と課題 母性衛生 56 (2) 282-291
- ・久保幸代、惠美須文枝、笠原小百合、西平真里沙、高橋 浩美(2015)：英国の助産学実習指導の特徴に関する一考察、日本保健科学学会誌、18 (3)、119-126

研究助成

- ・平成 25 年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究 C）研究課題番号 25463353、看護大学と臨床における労働時間の「等価交換」による連携・協同システムの構築、久保幸代(代表者)、栗栖千幸、惠美須文枝（連携研究者）、金澤貴子、鈴木享子、巖 千晶、渡邊麻実、熊沢美奈好、前田弘美
- ・平成 27 年度亀田医療大学学長裁量特別研究費、柚山香世子（代表者）、久保幸代、高橋道明、惠美須文枝（共同研究者）看護学生の看護補助者としてのアルバイトに関する研究

社会貢献

- ・日本看護学教育学会 専任査読員
- ・日本保健科学学会 評議員
- ・日本助産評価機構 評議員
- ・日本私立看護系大学協会 理事
- ・子育てボランティア団体「さんごサポネット in 荒川」主宰
- ・全国助産師教育協議会研究研修センター運営委員
- ・荒川区 子ども・子育て会議 委員
- ・学校法人鉄蕉館理事・評議員

講演等

- ・助産教育課程 I・II（助産師教育カリキュラムの構築）：20 時間 全国助産師教育協議会研究研修センター研修会 講師（大阪）2016 年 1.2 月
- ・看護教育について 亀田医療大学平成 27 年度臨床指導者研修会講師(鴨川市)2015 年 6 月

新田 静江

学会発表

- ・菅沼真由美、新田静江（2015）：認知症高齢者の女性介護者における介護代替者の有無と介護負担感・精神的健康度の関連、日本老年看護学会第 20 回学術集会（横浜市）

学会等社会貢献

役職

- ・日本看護科学学会 専任査読者 2003 年 10 月～

- ・山梨県高齢者権利擁護等推進部会 部会長 2011年～
- ・山梨大学大学院医工農学総合研究部 非常勤講師 2013年～
- ・鴨川地域医療連携会議委員 2013年～
- ・亀田総合病院地域連携室会議委員 2013年～
- ・鴨川市社会福祉協議会 地域福祉活動計画策定委員 2015年～

講師

- ・鴨川市通所サービス連絡協議会講師「通所サービスにおける男性利用者について考える Part3」2015年6月
- ・亀田訪問看護センター研修会 講師「ナースのためのレポート書き方入門：やった！言語化できた！伝わった！」2015年6月
- ・千葉県立長狭高校医療福祉コース出張講義 講師「めざせ100歳の私！」2015年6月
- ・亀田医療大学実習指導者研修会 講師「実習指導の原理」2015年7月
- ・山梨県高齢者権利擁護等推進員養成研修会 講師 2015年8月、2015年11月
- ・山梨県高齢者権利擁護等事例検討会 講師 2015年12月
- ・亀田医療大学公開講座 講師「この地で自分らしく生きる～地域包括ケアと自助・互助・共助・公助～」2016年1月
- ・鴨川市通所サービス事業所連絡協議会研修会 講師「通所利用者の元気を引き出すレクリエーションとは？」2016年3月

原田 光子

学会発表

- ・松丸直美、原田光子 (2015年11月)：パーキンソン病療養者の服薬管理に関する看護職の役割、第7回南房総リハビリテーション・ケア文化祭（千葉県）
- ・渡邊琴美、原田光子、青木信也(2015年7月)：パーキンソン病療養者のQOLを高める支援について一 家族関係の支援について一、第20回日本難病看護学会（東京）

研究助成及び研究活動報告

- ・平成25年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C）研究課題番号25463558、パーキンソン療養者に対する早期からの看護支援・リハビリテーションプログラムの開発、原田 光子（研究代表者）、中江秀幸（研究分担者）、富安眞理（研究分担者）

研究活動報告：目的は、在宅パーキンソン療養者（PD）の服薬支援プログラムとリハビリテーションプログラムの作成と評価である。看護支援プログラムについては、主に服薬支援についてプログラムを作成する。療養者へ服薬管理の困難性について半構造化面接を行い内容分析にてプログラム内容を抽出した。今後、プログラムとし介入を実施する。リハビリテーションプログラムにおいては、分担者が実施している。

- ・平成27年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C）研究課題番号15K08563、在宅パーキンソン病患者の生活地域における活動量とQOL維持のための支援活動の構築、中江秀幸（研究代表者）、原田光子（研究分担者）

某県において、在宅パーキンソン療養者（PD）が地域資源を利用することで、特にディサービスとデイケアサービスを利用することで、QOL（PGQ-39）を高めることができているかを質問紙で調査する。質問紙の構成と質問紙の一部であるQOL（PDQ-39）について検討した。

深谷 智恵子

原著論文等

- ・船木 淳, 深谷智恵子 (2015) : フライトナースの看護実践の構造 救急看護学会雑誌、17(2)、P.1~11

学会等社会貢献

- ・一般社団法人日本循環器看護学会 監事
- ・一般社団法人日本クリティカルケア看護学会 監事
- ・和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科 非常勤講師 (8時間)
- ・神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 非常勤講師 (4時間)

宮本 真巳

著書

- ・岩崎 弥生, 渡邊 博幸, 宮本 真巳他(2016) : 新体系看護学全書, 精神看護学2, 精神障害をもつ人の看護, メヂカルフレンド社, P.518 (P.467~487)

原著論文等

- ・川俣 文乃, 高濱 圭子, 美濃 由紀子, 宮本 真巳(2016) : 看護場面の再構成による臨床指導 : 感情活用に向けた継続学習—積極的傾聴と無力の表明—, 精神科看護, 43 (4) P.34-41
- ・村重 菜摘, 美濃 由紀子, 田上 美千佳, 宮本 真巳(2016) : 看護場面の再構成による臨床指導 : 精神看護学実習における学生の学びとその後の活用, 精神科看護, 43 (2) , P.42-47
- ・美濃 由紀子 中川 佑架, 宮本 真巳(2015) : 司法精神医療における内省深化に向けた多職種チームアプローチ—MDT 会議の再現を通して—, 日本精神科看護学術集会誌, 58 (3), P.292-296
- ・宮本 真巳(2015) : 看護場面の再構成による臨床指導 : 情報化社会における感情活用とメディアリテラシー, 精神科看護, 42 (10) , P.68-075 精神科看護, 42 (12) P.22-27
- ・宮本真巳(2015) : 受援力に関連する諸問題について—災害支援からセルフケア支援まで—, 日本保健医療行動科学会雑誌, 30 (1) P.81-86
- ・美濃 由紀子, 村重 菜摘, 田上 美千佳, 宮本 真巳(2015) : 看護場面の再構成による臨床指導 : 援助関係づくりのつまずきを越えて—感情活用によるストーリーの書き換え—, 精神科看護, 42 (8), P.62-69
- ・堀川 英起, 福士 佳純, 宮本 真巳(2015) : 看護場面の再構成による臨床指導 : 寂しさの自覚から援助関係づくりへ—自己一致と感情活用をどう支援するか—, 精神科看護, 42 (6), P.52-59

学会報告

- ・福岡 透, 福島 幸司, 渡邊 弘, 中川 佑架, 美濃 由紀子, 宮本 真巳(2015) : 医療観察法病棟におけるピアレビューを通じた多職種連携の向上—看護職の視点から—, 第 69 回国立病院総合医学会 (札幌)
- ・美濃 由紀子, 中川 佑架, 宮本 真巳(2015) : 指定入院医療機関における多職種チーム参加の事例検討を通じた継続学習—ピアレビュー活動を通じて—, 第 11 回司法精神医学会大会 (愛知)
- ・三木 明子, 友田 尋子, 山田 典子, 日下 修一, 宮本 真巳, 柳井 圭子(2015) : 日本の学部・大学院教育でフォレンジック看護をどう教えるか, 第 35 回日本看護科学学会大会 (広島)
- ・高濱 圭子, 美濃 由紀子, 松浦 佳代, 大河原 文, 田上 美千佳, 宮本 真巳(2015) : 事例検討会における

参加者の学習内容に関する研究—参加者への質問紙調査の結果から、第 35 回日本看護科学学会大会（広島）

- ・松浦 佳代, 美濃 由紀子, 高濱 圭子, 大河原 文, 田上 美千佳, 宮本 真巳(2015) : 看護系大学などで開催されている事例検討会の方法論に関する研究の動向, 第 35 回日本看護科学学会大会（広島）

学会等社会貢献

- ・日本精神保健看護学会 理事
- ・日本精神科看護協会 認定看護師認定委員
- ・日本保健医療行動科学学会 理事
- ・日本家族と子どもセラピスト学会 理事
- ・ダルク女性ハウス 理事
- ・司法精神医療等人材養成研修 企画委員
- ・東京医科歯科大学医学部臨床倫理委員会 委員
- ・東京医科歯科大学保健衛生学研究科「精神保健看護学特論」講師（6 時間）
- ・東京医科歯科大学医学部保健衛生学科「精神看護学」講師（2 時間）
- ・東京医科歯科大学医学部付属病院精神科デイケア講師（8 時間）
- ・虎の門病院看護部研修講師「事例検討の方法」2015 年 6・7 月
- ・千葉県立長狭高等学校運営協議会委員
- ・千葉県立長狭高等学校医療・福祉コース講義「心の健康を守るには?」2015 年 6 月
- ・千葉県東葉高校出張講義「看護師はどのような専門職か?」2016 年 2 月

休波 茂子

原著論文等

- ・臼井綾子、佐久間夕美子、休波茂子（2015）：基礎看護技術教育の教科書分析に関する文献検討、日本看護研究学会雑誌、38（4）、73-80
- ・山口佳子、山本美紀、吉田理恵、休波茂子（2015）：リスクマネージャーが認識する新人看護師のリスク感性を阻害する要因、日本赤十字北海道看護大学紀要、15、37-43

学会発表

- ・鶴沢淳子、有家香、佐久間夕美子、休波茂子（2015）：基礎看護技術の習得に共通一事例を用いた教育方法の学修効果、第 46 回日本看護協会学術集会—看護教育—（奈良市）
- ・有家香、休波茂子（2015）：新人看護師の就職後 1 年間の成長の様相、第 35 回日本看護科学学会学術集会（名古屋市）

研究助成及び研究活動報告

- ・平成 27 年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究 C）研究課題番号 25463354、看護学生の臨地協働による医療安全教育プログラム開発と評価、渡邊八重子（研究代表者）手島恵（研究分担者）、クローズ幸子（研究分担者）、休波茂子（研究分担者）

学会等社会貢献

- ・レベル 1 研修『看護診断基礎』研修会講師、亀田総合病院、（20.0 時間）
- ・『看護診断』研修会講師、公立昭和病院、（4.5 時間）
- ・臨床美術協会 理事

足立 智孝

原著論文等

- ・ 足立智孝、鶴若麻理(2015)：「アドバンス・ケア・プランニングに関する一考察—米国のアドバンスディレクティブに関する取組みを通して」『生命倫理』25巻1号：69-77.
- ・ 佐藤真由美、佐藤禮子、足立智孝(2016)：「婦人科がん術後患者の生活支援に係る倫理的課題—退院後電話相談の内容からの考察—」『日本看護倫理学会誌』8巻1号：16-24.

学会発表

- ・ 佐藤真由美、佐藤禮子、足立智孝(2015)：婦人科がん術後患者への退院後の電話相談における倫理的課題、日本看護倫理学会（神戸国際会議場）
- ・ 足立朋子、足立智孝(2015) 亀田総合病院臨床研究倫理審査委員会における統合指針に対する取組み、研究倫理を語る会（東京医科歯科大学）

学会等の役職

- ・ 日本生命倫理学会 評議員
- ・ 日本看護倫理学会 評議員
- ・ 地球システム・倫理学会 評議員

研究助成及び研究活動報告

研究助成

- ・ 平成 24 年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究 B）研究課題番号 24390482、看護師に対する倫理サポートのアクションリサーチ、小西恵美子（研究代表者）、足立智孝（研究分担者）、八代利香（同）、山下早苗（同）、前田樹海（同）、鈴木真理子（同）、八尋道子（同）、持留里奈（同）
- ・ 早稲田大学人間総合研究センター・一般研究プロジェクト、高齢者主体の新しいアドバンス・ケア・プランニングの創出、土田友章（研究代表者）、足立智孝（研究分担者）、辻内琢也（同）、扇原淳（同）、鶴若麻里（同）、横瀬利枝子（同）、角田ますみ（同）、大桃美穂（同）、日野智豪（同）、仙波由加里（同）
- ・ 平成 27 年度文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究 A）研究課題番号 15H02586、市民と専門職で協働する日本型対話促進 ACP 介入モデルの構築とエビデンスの確立、長江弘子（研究代表者）、足立智孝（研究分担者）、森田達也（同）、宮下光令（同）、田村恵子（同）、酒井昌子（同）、片山陽子（同）、乗越千枝（同）竹ノ内沙弥香（同）、谷垣静子（同）
- ・ 味の素製薬奨学金、維持血液透析をめぐる意思決定の実態に関する基礎調査、鈴木玲子（研究代表者）、足立智孝（研究分担者）
- ・ 亀田医療大学学長裁量研究費、婦人科がん術後（リンパ節郭清術後）リンパ浮腫予防のための外来支援プログラム開発、佐藤真由美（研究代表者）、足立智孝（研究分担者）

社会貢献

- 1 大学・大学院講師
 - ・ 東京女子医大学大学院看護学研究科「人間学」（21.25 時間）
 - ・ 星薬科大学薬学部「医療倫理学」（15 時間）
 - ・ 昭和薬科大学薬学部「ヒューマニズム：生と死を考える」（6 時間）

- ・千葉大学大学院看護学研究科「エンドオブライフケアと生命倫理」(3時間)
- ・千葉大学普遍教養教育「エンドオブライフと倫理：安楽死と尊厳死を中心に」(1.5時間)

2 講演会

- ・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針について」医療法人鉄蕉会亀田総合病院臨床研究審査委員会研修会、医療法人鉄蕉会亀田総合病院、2015年5月25日
- ・「看護と倫理(学)」医療法人鉄蕉会亀田総合病院看護部研修「看護研究」、医療法人鉄蕉会亀田総合病院、2015年10月8日
- ・「高齢者ケアと倫理」社会福祉法人太陽会倫理研修会、めぐみの里、2015年11月25日
- ・「研究倫理」医療法人鉄蕉会亀田総合病院看護部研修「看護研究」、医療法人鉄蕉会亀田総合病院、2015年12月17日
- ・「医療現場における倫理を考える4—事例／ケースを通して倫理を考えよう—」長野市民病院医療倫理講演会、長野市民病院、2016年3月8日

3 外部委員

- ・医療法人鉄蕉会倫理問題検討委員会 委員
- ・医療法人鉄蕉会臨床研究審査委員会 委員
- ・*Encyclopedia of Global Bioethics* Member of International Editorial Board 国際編集委員会委員
- ・日本生命倫理学会 総務委員会委員、第27回年次大会実行委員会委員(2015年12月まで)
- ・日本医学哲学倫理学会 国際学術交流委員会委員、第34回大会実行委員会委員長(2015年11月まで)
- ・日本看護倫理学会 編集委員
- ・RDクリニック特定認定再生医療等委員会 副委員長
- ・RDクリニック認定再生医療等委員会 委員

新居 富士美

論文等

- ・Nobuko Sekinaga, Fujimi Arai, Yumiko Takigawa, Mikiko Hirota(2014): Study of Effective Learning method of Home Nursing image that Nursing student have, *Aino Journal*, Vol113, 45-50.
注) 大幅に遅れて2015年に発刊

学会発表

- ・Development of a Depression Prevention Program to Enhance Mental and Physical Health among Elders in Devastated Areas: Report of a Pilot Study Incorporating Laughter. M. Kobayashi, F. Arai. THE 6TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON COMMUNITY HEALTH NURSING RESEARCH, 2015, SEOUL (Seoul, Korea)

大石 昌也

学会等の役職

- ・日本新生児成育医学会 評議員

研究助成及び研究活動報告

- ・Combi (株) 育児用品開発援助 (抱っこヒモの安全、新生児生体情報計測助言)、2014年4月より不定期
- ・TR&K (株)、小池メディカル (株) 非侵襲的モニタ開発共同研究、平成27年度より不定期

平山 香代子

学会発表

- ・炭谷靖子・本田彰子・正野逸子・菊池和子・上野まり・赤沼智子・栗本一美・平山香代子・王麗華・土平俊子・荒木晴美(2015)：介護支援専門員専門研修Ⅱでの受講者の気づきー4側面のアセスメントシートと関連図を活用してー、第28回日本看護福祉学会抄録集, p.103 (福岡).
- ・本田彰子・菊池和子・正野逸子・炭谷靖子・荒木晴美・赤沼智子・平山香代子・王麗華・栗本一美・上野まり・土平俊子(2015)：管理者が捉えた在宅看護学実習受け入れによる訪問看護師への教育的影響、第28回日本看護福祉学会抄録集, p.71 (福岡)
- ・王麗華・平山香代子・太田浩子・福島道子(2015)：地域包括ケアを推進するための家族看護-家族の介護力を高める支援を中心に-、第35回日本看護科学学会学術集会講演集, p.401 (広島)

研究助成及び研究活動報告

- ・平成27年度文部科学省科学研究費助成事業 (基盤研究C) 研究課題番号15K11815、Webコミュニティを用いた訪問看護情報・知識の創発・学習プログラムの構築、王麗華「研究代表者」、磯山優「研究分担者」、平山香代子「研究分担者」、安藤公彦「研究分担者」、太田浩子「研究分担者」、遠藤順子「研究分担者」
- ・平成25年度文部科学省科学研究費助成事業 (基盤研究C) 研究課題番号25463541、訪問看護における臨床と教育機関の連携融合教育ー学習プログラムの開発ー、本田彰子「研究代表者」、正野逸子「研究分担者」、菊池和子「研究分担者」、炭谷靖子「研究分担者」、荒木晴美「研究分担者」、栗本一美「研究分担者」、赤沼智子「研究分担者」、王麗華「研究分担者」、上野まり「連携研究者」、平山香代子「連携研究者」

学会等社会貢献

- ・招聘講演：私の地域における在宅療養を支える多職種連携、国際医療福祉大学同窓会看護学科分科会、栃木県大田原市、2015年8月

真野 響子

著書

- ・有家香、貝瀬友子、木下里美、藏谷範子、佐藤真由美、末永弥生、鈴木玲子、高野海哉、高橋明美、高橋道明、富澤栄子、博多祐子、真野響子、宮崎俊一郎、森本悦子、山崎由美子、山下留理子(2016)：2016年版看護師国家試験問題解答・解説、別冊第104回看護師国家試験解答・解説 pp. 95.97.100.102.108.117-118.121-123

学会等社会貢献

- ・千葉県看護協会安房地区部会 幹事
- ・NPO 法人フローファミリー(ホームホスピス事業) 理事
- ・一般社団法人日本看護業務研究会 社員(Health Care books 作成委員会 病院看護師版作業部会 主査)
- ・「埼玉医科大学国際医療センター主催 ELNEC-J コアカリキュラム看護教育プログラム(モジュール1 エンド・オブ・ライフにおける看護、モジュール4 エンド・オブ・ライフにおける倫理的問題の講義、モジュール2・3・6 ファシリテーター)」埼玉医科大学国際医療センターC棟2階会議室 2015年9月
- ・「千葉県看護協会安房地区部会 第37回看護研究発表会(研究査読・講評)」千葉県南総文化ホール 大会議室 2016年2月

久保 幸代

原著論文等

- ・久保幸代、恵美須文枝、笠原小百合、西平真里沙、高橋 浩美(2015)：英国の助産学実習指導の特徴に関する一考察、日本保健科学学会誌、**18** (3)、119-126
- ・久保幸代、山本智美、渡辺愛、田口眞弓他(2016)：組織強化委員会「日本助産師会をさらに活性化するためのアンケート」結果報告、助産師、**70** (1)、63-67

学会発表

- ・鈴木あすか、久保幸代、吉田広美、吉澤美穂(2015)：Continuous Support for Social High-Risk Pregnant Women and Their Babies、The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015、パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)
- ・笠原小百合、福原恵美子、吉田広美、上川万里子、久保幸代(2015)：助産師による退院後の支援に対する出産後の母親のニーズ、盛岡市民文化ホール「マリオス」(岩手県盛岡市)

研究助成及び研究活動報告

- ・平成25年度文部科学省科学研費助成事業(基盤研究C)研究課題番号25463353、看護大学と臨床における労働時間の「等価交換」による連携・協働システムの構築、久保幸代(研究代表者)

学会等社会貢献

1 外部役員

- ・日本助産師会 組織強化委員会 委員長
- ・日本助産学会 編集委員会 委員
- ・千葉県看護協会 助産師職能委員会 委員
- ・日本私立看護系大学協会委員会 委員

2 講演等

- ・「質的研究の陥りやすい罠」、第30回日本助産学会学術集会ワークショップ(京都大学百周年時計台記念館、京都府京都市)、2016年3月20日

栗栖 千幸

著書

- ・ Rolf G. Larsson, Yoshinobu Shima, Chiyuki Kurisu (2015) : *Lean Management of Global Supply Chain, Japanese Management and International Studies, Vol.12* P.161-P.187

学会研究発表

- ・ 飯野理恵、石丸美奈、時田礼子、岩瀬靖子、上田修代、杉田由加里、栗栖千幸、佐藤紀子、宮崎美砂子 (2015) : 「デルファイ法を用いた予防活動の持続・発展に有用な地域看護技術項目の検討(その1) - 第1回目及び第2回目の質問紙調査結果 - 」第18回日本地域看護学会学術集会 (横浜).
- ・ Rie Iino, Misako Miyazaki, Mina Ishimaru, Reiko Tokita, Yukari Sugita, Seiko Iwase, Yuko Tutiya, Noriko Sato, Nobuyo Ueda, Chiyuki Kurisu (2016) A Delphi method-based examination of community nursing skills useful for the maintenance and development of prevention activities ,19th EAFONS East Asian Forum Of Nursing Scholars in Chiba,Japan March 15 (Tue.).

学会等の役職

- ・ 日本管理会計学会 2015 年度全国大会実行委員会 委員 (学会期間 : H27.8.28~30)

研究助成及び研究活動報告

研究助成

- ・ 平成 25 年度文部科学省科学研究費助成事業 (基盤研究 C) 課題番号 25463352、看護サービスの品質マネジメントモデルの構築に関する研究、栗栖千幸 (研究代表者) 安酸建二 (研究分担者)、島 吉伸 (研究分担者)
- ・ 平成 25 年度文部科学省科学研究費助成事業 (基盤研究 B) 課題番号 25293470、予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイドの作成と普及に関する研究、宮崎美砂子 (研究代表者) 研究分担者 : 石丸美奈 (研究分担者)、杉田由加里 (研究分担者)、飯野理恵 (研究分担者)、時田礼子 (研究分担者)、佐藤紀子 (連携研究者)、栗栖千幸 (連携研究者)、上田修代 (連携研究者)、岩瀬靖子 (研究協力者)、土屋裕子岩瀬靖子 (研究協力者)
- ・ 平成 25 年度文部科学省科学研究費助成事業 (基盤研究 C) 課題番号 25463353、看護大学と臨床における労働時間の「等価交換」による連動・協働システムの構築、久保幸代 (研究代表者)、栗栖千幸 (連携研究者)、恵美須文枝他 7 名 (研究協力者)

社会貢献

その他

- ・ 亀田総合病院地域連携室会議委員 2011 年 5 月～
- ・ 鴨川地域医療連携会議委員 2012 年 12 月～2016 年 3 月
- ・ 平成 26 年度 在宅医療・介護連携推進研究会 (鴨川市) 2015 年 10 月

古賀 雄二

著書

- ・ 古賀雄二 (2015) : 鎮静コントロールと急性期リハビリテーション~ICU における TPW の推進と ICU 専従理学療法士への期待~, MEDICAL REHABILITATION, 全日本病院出版会,190 号,P25-30,
- ・ 古賀雄二 (2015) : 総論 医原性リスク低減戦略としての看護ケアと ABCDEF バンドル(解説/特集).呼吸器ケア,13(7),p622-627.
- ・ 古賀雄二 (2015) : 成人 ICU 患者のせん妄発症は、予後にどう影響するか?また、せん妄評価をルーチ

ン化することで患者予後は改善できるのか？,Surviving ICU シリーズ 重症患者の痛み・不穏・せん妄 実際どうする？使えるエビデンスと現場からのアドバイス,羊土社,p99-105.

- ・古賀雄二(2015) : ICUにおいて、非薬物的せん妄対策プロトコルはせん妄発症や期間を減少させるために使用すべきか？Surviving ICU シリーズ 重症患者の痛み・不穏・せん妄 実際どうする？使えるエビデンスと現場からのアドバイス,羊土社,p137-145.
- ・古賀雄二,藤本晃治(2015) : 看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術—急性・クリティカルケア看護 鎮痛・鎮静管理,メヂカルフレンド社,P123-34.

原著論文等

- ・Koga Y, Tsuruta R, Murata H, Matsuo K, Ito T, Ely EW, Shintani A, Wakamatsu H, Sanui M, Yamase H (2015) : Reliability and validity assessment of the Japanese version of the Confusion Assessment Method for the Intensive Care Unit (CAM-ICU). Intensive Crit Care Nurs,31(3),165-70.

学会発表

- ・古賀雄二,植村桜,茂呂悦子,古厩智美,藤野智子,伊藤聡子,杉江英理子,井上和代,杉野由起子,大西純子,小幡祐司(2015) : せん妄ケアにおける急性・重症患者看護専門看護師(CCNs)の実践役割,第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会(福岡市)
- ・古賀雄二,宮崎俊一郎(2016) : 日本語版 CAM-ICU フローシートが最も推奨される ICU せん妄評価ツールである,第43回日本集中治療医学会学術集会(神戸市).
- ・宮崎俊一郎,古賀雄二(2016) : 術後挿管患者の CAM-ICU 陽性率は継時的に変化する,第43回日本集中治療医学会学術集会(神戸市).
- ・植村桜,古賀雄二,吹田奈津子,茂呂悦子,鶴田良介,西信一,長谷川隆一,行岡秀和,布宮伸(2016) : 集中治療領域における痛み・不穏・せん妄管理の現状調査,第43回日本集中治療医学会学術集会(神戸市).
- ・布宮伸,植村桜,古賀雄二,吹田奈津子,茂呂悦子,鶴田良介,西信一,長谷川隆一(2016) : J-PAD ガイドライン : ツールを使ってみよう,第43回日本集中治療医学会学術集会(神戸市).
- ・嶋岡征宏,相良章江,田中美知代,白石知之,宇多川文子,古賀雄二(2016) : 高度救命救急センター初療段階におけるせん妄発症状況の実態調査 (DTS・bCAM を使用して),第43回日本集中治療医学会学術集会(神戸市).

研究助成及び研究活動報告

1 研究助成

- ・平成27年度文部科学省科学研究費助成事業(研究活動スタート支援)研究課題番号15H06576,日本語版 bCAM の妥当性・信頼性の検証,古賀雄二(研究代表者).

2 研究活動報告

- ・主たる研究は、せん妄評価ツールの開発・妥当性検証研究であり、3種類(成人患者用、学童用、乳幼児用)のツール作成を行っている。具体的には、欧米で作成されたせん妄ツールの日本語版の作成と妥当性検証であり、1種類はデータ収集後の分析中、1種類は臨床でのデータ収集を開始、1種類は日本語版の作成中である。また、過去に検証を行ったせん妄ツールに関して、英文雑誌に掲載(2015年6月)された。また、学会発表も件「(2016年2月)行い、うち1件は第43回日本集中治療医学会学術集会優秀演題に選出された。
- ・共同研究者とともに、せん妄の病態、特に、せん妄と筋・神経、脳血行動態、全身炎症反応との関連について研究を行っており、学会発表1件(共著)行った。
- ・日本専門看護師協議会急性・重症患者看護分野せん妄ワーキンググループリーダーとしての活動において、全国の専門看護師のせん妄に関する活動調査を行い、1件の学会発表を行い、論文投

稿中である。

学会等社会貢献

1 学会等の役職

- ・日本クリティカルケア看護学会 専任査読委員
- ・日本クリティカルケア看護学会 評議員
- ・日本クリティカルケア看護学会 せん妄委員会委員
- ・日本集中治療医学会 J-PAD ガイドライン作成委員会委員
- ・日本集中治療医学会 J-PAD ガイドライン検討委員会委員
- ・日本集中治療医学会 看護部会中四国地方会委員
- ・日本専門看護師協議会急性・重症患者看護分野せん妄ワーキングリーダー
- ・日本看護学会 査読委員

大学の講師

- ・自治医科大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻非常勤講師「鎮痛・鎮静・せん妄」(360分)
- ・和歌山県看護協会救急看護認定看護師課程非常勤講師「鎮痛・鎮静・せん妄」(360分)

2 講演等

講演

- ・「J-PAD ガイドラインと ABCDEF バンドル」、日本疼痛看護研究会(静岡市)、2015年8月
- ・「J-PAD ガイドラインと ABCDEF バンドル～非薬理ケアの見つけ方～」、臨海 ICU セミナー(江東区)、2015年9月
- ・「J-PAD ガイドラインと ABCDEF バンドル～非薬理ケアの見つけ方～」、がん研究会有明病院勉強会(東京都江東区)、2015年9月
- ・「J-PAD ガイドラインと ABCDEF バンドル～非薬理ケアの見つけ方～」、第2回福岡県クリティカルケアセミナー(福岡市)、2015年11月
- ・「J-PAD ガイドラインと ABCDEF バンドル～非薬理ケアの見つけ方～」、千葉県 ICU セミナー(千葉市)、2015年11月
- ・「人工呼吸療法と PAD ガイドライン」、日本クリティカルケア看護学会教育セミナー(東京都港区)、2015年12月
- ・「J-PAD ガイドラインと ABCDEF バンドル～非薬理ケアの見つけ方～」、九州沖縄クリティカルセミナー(福岡市)、2016年1月
- ・「J-PAD ガイドラインと ABCDEF バンドル～非薬理ケアの見つけ方～」、千葉県救急医療センター勉強会(千葉市)、2015年2月
- ・「脳神経外科とせん妄」、亀田総合病院脳神経外科病棟勉強会(鴨川市)、2016年3月

シンポジウム

- ・「Need for help と ICU 専従理学療法士の可能性」、第2回日本呼吸理学療法学会学術集会(東京都港区)、2015年10月
- ・「せん妄対策としての医原性リスク低減～ICU 患者生活のパラダイムシフトと Patient Centered Care～」、第43回日本集中治療医学会学術集会(神戸市)、2016年2月

外部委員

- ・日本専門看護師協議会 急性・重症患者看護分野せん妄ワーキンググループ リーダー

- ・地方独立行政法人山口県産業技術センター イノベーション推進センターアドバイザー

その他の活動

- ・(学術学会での座長)
- ・第 11 回日本クリティカルケア看護学会せん妄交流集会座長 (福岡市)、2015 年 6 月
- ・「若手医師が PAD に取り組む根拠と魅力」座長第 11 回日本クリティカルケア看護学会ランチョンセミナー (福岡市)、2015 年 6 月

2015278132

第 43 回日本集中治療医学会学術集会 優秀演題賞受賞 (筆頭著者)

佐藤 真由美

著書

- ・有家香、貝瀬友子、木下里美、蔵谷範子、佐藤真由美、末長弥生ら (2015) : 2016 年版看護師国家試験問題解答・解説(共著)、メヂカルフレンド社、P138(19、53、106、68、80、81)

原著論文等

- ・佐藤真由美、佐藤禮子、足立智孝 (2016) : 婦人科がん術後患者の生活支援に係る倫理的課題—退院後電話相談の内容からの考察— 日本看護倫理学会学会誌 Vol18 No. 1、(P16-24)

学会発表

- ・佐藤真由美、佐藤禮子 (2015) : 婦人科がん患者のリンパ節郭清療法に伴う CDSMP の変化、第 38 回日本リンパ学会総会、ソラシティー(東京都)
- ・佐藤真由美、佐藤禮子、足立智孝 (2016) : 婦人科がん術後患者への退院後の電話相談における倫理的課題、日本看護倫理学会 第 8 回年次大会(神戸市)

研究助成及び研究活動報告

- ・平成 26 年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究 C) 研究課題番号 26463393、両親の声かけに対する極低出生体重児の自律神経系反応の理解を促す介入効果、堀金幸栄(研究代表者)、佐藤真由美(研究分担者)
- ・亀田医療大学学長裁量経費、婦人科がん術後(リンパ節郭清術後)リンパ浮腫予防のための外来支援プログラム開発、佐藤真由美(研究代表者)

学会等社会貢献

- ・総合研究所運営委員会、主に亀田総合病院に勤務している者に対する研究支援活動、科研費についての説明会の開催、亀田医療大学客員研究員の認可などを実施(2016 年 4 月～3 月)
- ・平成 27 年度亀田メディカルセンター看護部研修「看護研究」講師、看護職者に対して研究指導を実施した(2015 年 10 月～2 月)
- ・日本私立看護系大学協議会 事業委員、講演会時の会場準備・運営上の手伝い、後片付けなど実施(2015 年 3 月～2016 年 3 月)

渡邊 八重子

学会発表

- ・渡辺八重子・クローズ幸子・手島恵(2015) : 組織の安全文化の醸成に関わる要因の研究—TeamSTEPPS 導入による安全文化の変化、日本看護科学学会 (広島)

研究助成及び研究活動報告

- ・平成 25 年度文部科学省科学研究費助成事業 (基盤研究 C) 研究課題番号 25463354、看護学生の臨地協働による医療安全教育プログラム開発と評価、渡辺八重子 (研究代表者)、休波茂子 (研究分担者)、クローズ幸子 (研究分担者)、手島恵 (研究分担者)

社会貢献

- ・日本看護学教育学会研修会、「米国看護大学における質と安全教育の改革 QSEN (Quality and Safety Education for Nurses)」(徳島)、2015 年 8 月 17 日
- ・日本看護協会、「安全文化の醸成に向けた活動①看護基礎教育と医療機関における教育の役割」(東京)、2015 年 9 月 10 日

有家 香

著書

- ・有家香、真野響子、高橋道明ら(2015) : 2016 年版 看護師国家試験問題 解答・解説 別冊第 104 回看護師国家試験問題 解答・解説、メヂカルフレンド社編集部、P138(午前 1、2、午後 33、34、44、48)

論文

- ・有家香、(2015)、新人看護師の看護技術実施に伴う体験の捉え方.日本赤十字看護学会誌、15(1)、p 47-54.

学会発表

- ・有家香、鵜沢淳子(2015) : 一事例を用いた基礎看護技術演習における教育効果の検討、第 46 回日本看護学会—看護教育—学術集会(奈良市)
- ・鵜沢淳子、有家香、佐久間夕美子、渡邊八重子、休波茂子(2015) : 基礎看護技術の修得に共通の一事例を用いた教育方法の学習効果、第 46 回日本看護学会—看護教育—学術集会(奈良市)
- ・佐久間夕美子、鵜沢淳子、有家香(2015) : 認知症グループホームにおけるケアスタッフと看護職の協働に影響する要因、第 25 回日本健康医学会(愛知県久手市)
- ・有家香、休波茂子(2015) : 新人看護師の就職後 1 年間の成長の様相、第 35 回日本看護科学学会学術集会、(広島市)
- ・鵜沢淳子、有家香(2016) : 介護職の職業選択理由と就業中の精神健康状態との関連、第 22 回日本心身健康科学学会学術集会(東京都千代田区)

研究活動報告

- ・看護大学生の持つ特性的自己効力感とストレスとの関係—主要 5 因子性格検査の結果からその傾向を見る—、鵜沢淳子(研究代表者)、有家香(研究分担者)、小岩信義(研究分担者)、久住武(研究分担者)

鶴沢 淳子

学会発表

- ・鶴沢淳子、有家香、佐久間夕美子、渡邊八重子、休波茂子(2015)：基礎看護技術修得に共通の一事例を用いた教育方法の学習効果、第46回日本看護学会学術集会(奈良市)
- ・有家香、鶴沢淳子(2015)：一事例を用いた基礎看護技術演習における教育効果の検討、第46回日本看護学会学術集会(奈良市)
- ・佐久間夕美子、鶴沢淳子、有家香(2015)：認知症グループホームにおけるケアスタッフと看護職の協働に影響する要因、第25回日本健康医学会(愛知県久手市)
- ・鶴沢淳子、有家香(2016)：介護職の職業選択理由と就業中の精神健康状態との関連、第22回日本心身健康科学学会学術集会(東京都千代田区)

研究活動報告

- ・看護大学生の持つ特性的自己効力感とストレスとの関係ー主要5因子性格検査の結果からその傾向を見るー、鶴沢淳子(研究代表者)、有家香(研究分担者)、小岩信義(研究分担者)、久住武(研究分担者)、

学会等社会貢献

- ・日本アンガーマネジメント協会所属 ファシリテータ
- ・株式会社 トータルケアコミュニケーション 非常勤講師

高橋 道明

学会発表

- ・安島幹子、高橋道明、藤尾麻衣子、西田朋子、遠藤公久、佐々木幾美(2015)：多様な背景をもつ看護学生・看護職員の動向に関する文献研究ー第1報ー、日本赤十字看護学会(東京)
- ・西田朋子、安島幹子、高橋道明、藤尾麻衣子、泊瀬川紀子、熊谷雅美、佐々木幾美(2015)：多様な背景をもつ看護職員に対する教育支援体制構築のためのモデル作成ー看護師長が捉える多様な看護職員の特徴と教育支援、日本看護管理学会(福島)
- ・藤尾麻衣子、高橋道明、安島幹子、西田朋子、佐々木幾美(2015)：米国における Nontraditional な看護師を対象とする研究の背景および教育支援に関する文献検討、日本看護科学学会(広島)

研究助成及び研究活動報告

- ・平成26年度文部科学省科学研究費助成事業(基盤研究C)研究課題番号26463261、多様な背景をもつ看護職員に対する教育支援体制構築のためのモデル作成(H26~28)、佐々木幾美(研究代表者)、西田朋子(研究分担者)、藤尾麻衣子(研究分担者)、高橋道明(研究分担者)

社会貢献

- ・日本看護管理学会 広報・学術情報委員
- ・「教育評価」(講師)、亀田総合病院、2015年7月15日
- ・「呼吸療法セミナーin湘南 2015」(インストラクター)、湘南藤沢徳洲会病院 2015年7月18日
- ・「若手医師のための人工呼吸器ワークショップ」(インストラクター)、フィリップス・レスピロニクス合同会社 2015年6月7日、9月26~27日、12月19~20日

松丸 直美

社会貢献

- ・安房地域精神障害者地域移行支援事業協議会 構成員 H25.11～
- ・鴨川市精神障害者家族会（月1回開催）アドバイザー H26.2～
- ・「よい対人関係を作る、コミュニケーションについて」、鴨川市老人会曾呂支部（曾呂公民館）、講師、2015年4月
- ・「パーキンソン病療養者の服薬管理に関する看護職の役割」、第7回南房総リハビリテーション・ケア文化祭（安房地域リハビリテーション広域支援センター主催）、2015年11月

柚山 香世子

研究助成

- ・亀田医療大学学長裁量経費特別研究費（2014、2015年度）：看護補助業務アルバイトに対する看護学生の体験、柚山香世子（研究代表者）、恵美須文枝（研究分担者）、久保幸代（研究分担者）、高橋道明（研究分担者）

学会等社会貢献

- ・安房地域精神障害者地域移行支援事業協議会 構成員 H25.11～H27.3
- ・児童養護施設における性教育 講師 H22.7～
- ・日本小児看護学会第25回学術集会 実行委員 H27.6.15～9.30

鈴木 玲子

著書

- ・有家香、貝瀬友子、加藤良子、藏谷範子、古賀雄二、小山裕子、佐藤真由美、清水泰子、末永弥生、鈴木玲子、高野海哉、高橋明美、高橋道明、富澤栄子、博多祐子、星野美幸、真野響子、宮崎俊一郎、森本悦子、山崎由美子、山下留理子(2016)：2017年版 看護師国家試験問題 解答・解説 別冊第104回看護師国家試験問題 解答・解説、P24(午前 82)、P29-30 (午前 94,95,96)、P57(午後 45)メヂカルフレンド社編集部

研究助成及び研究活動報告

- ・味の素株式会社奨学寄附金、血液透析をめぐる意思決定の実態に関する基礎調査、鈴木玲子（研究代表者）、足立智孝（協同研究者）、高梨弥生（協同研究者）
- ・味の素株式会社奨学寄附金、血液透析をめぐる意思決定の支援に関する基礎調査、鈴木玲子（研究代表者）、足立智孝（協同研究者）、高梨弥生（協同研究者）

中川 泰弥

学会発表

- ・中川泰弥(2015)：男性看護師を対象とした研究論文の動向、日本看護研究学会（広島県広島市）

宮崎 俊一郎

著書

- ・宮崎俊一郎(2016)：2017年版看護師国家試験、メヂカルフレンド社、P.6（P424、432、468、484、492、538）

学会発表

- ・宮崎俊一郎・古賀雄二(2016)：術後挿管患者のCAM-ICU陽性率は経時的に変化する．第43回日本集中治療医学会学術集会 Web抄録集,DP9-5
- ・古賀雄二・宮崎俊一郎(2016)：日本語版CAM-ICUフローシートが最も推奨されるICUせん妄評価ツールである，第43回日本集中治療医学会学術集会 Web抄録集,AW3-1,

研究助成及び研究活動報告

研究活動報告

- ・ICU入室重症患者のせん妄に対するケアのRCT介入研究中である。
- ・ICU入室患者の筋神経障害に対する、筋力評価ツールのRCT介入研究中である。
- ・虚血低酸素脳障害マウスモデルを使用した臓器保護治療の実験研究中である。

学会等社会貢献

その他の活動

- ・鴨川青年会議所（鴨川市）オブザーバー

7. 委員会活動等

1) 教授会

構成員：学長、教授（11名（平成27年5月1日より10名））

列席者：事務局長、財務部長、学務課係長代理、総務課係長、総務課職員

会議開催状況

開催状況：23回（臨時開催含む）

第1回	平成27年4月2日（木）	第13回	平成27年11月12日（木）
第2回	平成27年4月23日（木）	第14回	平成27年11月19日（木）
第3回	平成27年5月14日（木）	第15回	平成27年12月10日（木）
第4回	平成27年5月28日（木）	臨時第1回	平成27年12月17日（木）
第5回	平成27年6月11日（木）	第16回	平成27年12月22日（木）
第6回	平成27年6月25日（木）	第17回	平成28年1月14日（木）
第7回	平成27年7月9日（木）	第18回	平成28年1月28日（木）
第8回	平成27年7月23日（木）	第19回	平成28年2月10日（水）
第9回	平成27年9月10日（木）	第20回	平成28年2月25日（木）
第10回	平成27年9月17日（木）	第21回	平成28年3月3日（木）
第11回	平成27年10月15日（木）	第22回	平成28年3月17日（木）
第12回	平成27年10月29日（木）		

主な審議事項

1) 教育・学生に関すること

卒業判定、進級判定、平成28年度化学の講義、平成28年科目担当者、学年暦及び授業計画、カリキュラム検討ワーキングの活動、シンガポール研修、実習の出席日数、領域別実習、「看護学臨地実習」に関する取扱内規、教員に対するチューター制アンケート、平成28年度以降のチューター制度、チューター担当学生変更学年主任、亀田医療大学学生表彰に関する申合せ、表彰対象者の選出方法・推薦、学生満足度調査、SNSガイドライン作成、図書館でのスキヤナ利用、国家試験対策、学生の懲戒処分

2) 入試に関すること

平成27年度入学者決定、平成28年度入試面接評価用紙、平成29年度入試関連事項、理科系入学前学習プログラム、平成28年度推薦入試合否判定、平成28年度一般入試Ⅰ期合否判定、平成28年度センター試験利用入試合否判定、平成28年度一般入試Ⅱ期合否判定、

3) その他

FD委員会関連規程の廃止・制定、平成27年度FD年間計画、カリキュラムマップ研修会、授業展開研修、学長裁量経費特別研究費申請要領制定、長狭高等学校『医療・福祉コース』2年生カリキュラム支援、亀田医療大学名誉教授称号授与、平成27年度予算執行、設置の趣旨における自己点検評価、教員業績評価、学位記授与式、亀田医療大学教員補充計画、亀田医療大学教員選考委員会設置、教員選考結果、非常勤講師の講師料、非常勤講師審査、副学長の選任、3月31日・4月1日付人事異動、委員会の構成

2) 学科会議

構 成 員：学長、教授（11名（平成27年5月1日より10名）、准教授（5名）、講師（8名）、
助教（10名）、助手（4名）
事務局長

列 席 者：学務課係長代理、総務課係長、総務課職員

会議開催状況

開催状況：11回

第1回	平成27年4月23日（木）	第7回	平成27年11月19日（木）
第2回	平成27年5月28日（木）	第8回	平成27年12月22日（火）
第3回	平成27年6月25日（木）	第9回	平成28年1月28日（木）
第4回	平成27年7月23日（木）	第10回	平成28年2月25日（木）
第5回	平成27年9月17日（木）	第11回	平成28年3月17日（木）
第6回	平成27年10月29日（木）		

主な取扱事項

1) 大学運営

委員会報告、ITシステム導入計画報告、教員の臨床業務における兼業、平成27年度委員会構成、人事異動報告、平成26年度予算執行状況報告、兼業状況再確認、設置計画履行状況等調査（面接調査）実施報告、カリキュラム検討進捗状況報告、マイナンバー制度周知、大学院設置に係る寄付金募集、大学院設置準備進捗状況報告、2016年度教育体制検討プロジェクト報告、卒後サポートシステム具体案報告、設置計画梨国状況調査並びに財政状況及び施設等整備状況調査結果報告、平成28年度委員会構成、平成28年度学年主任

2) 学生関連事項

基礎ゼミナール発表会実施通知、看護倫理ディベート実施通知、大学祭開催通知、自治会主催オープンキャンパス開催報告、シンガポール研修概要報告、シンガポール研修実施報告

3) 行事

学長ヒアリング実施通知、市民公開講座実施通知、年末年始日程報告、送別会・歓迎会連絡事項、年度末・年度初会議予定、植樹祭、学位記授与式

4) その他

科研費応募手続き、亀田総合病院看護部教育委員会報告

3) 委員会活動

評価委員会

構成員：米林 喜男、新田 静江、恵美須 文枝、小幡 光子、休波 茂子
平川 弘一
事務担当：安田 紫音、平川 弘一

会議開催状況

開催回数：7回

審議事項・活動内容

1) 設置の趣旨における自己点検評価

昨年度より引き続き、設置の趣旨における自己点検評価の作成に従事した。情報の収集、取りまとめ、調整などを経て、9月15日開催第5回評価委員会において委員会としての案を作成した。その後、教授会の審議を経て、完成に至った。

2) 教員人事評価基準作成

昨年度より引き続き、教員人事評価基準の作成に従事した。昇進に関する基準としての利用をするか否かは判断せず、評価のみの基準として作成した。併せて実施規程等も作成した。9月15日開催第5回評価委員会において委員会としての案を取りまとめ、教授会に提案した。

3) 授業評価アンケート及び教員による授業評価

授業評価アンケート及び教員による授業評価を実施した。授業評価アンケートの結果は半期ごとに、教員による授業評価の結果は1年間を通したものを冊子化し、図書館に配架した。また、授業評価アンケートの結果は大学ホームページにも掲載した。

今後の対応・課題

1) 設置の趣旨における自己点検評価

今年度に引き続き、設置の趣旨における自己点検評価の作成を行う。平成27年度が完成年度であるため、設置の趣旨における自己点検評価の作成は、平成27年度分をもって最後とする。来年度分以降は、大学機関別認証評価の受審へと発展的解消を行う。

2) 日本高等教育評価機構における大学機関別認証評価受審について

平成30年に、日本高等教育評価機構における大学機関別認証評価の受審をすることから、来年度より本格的な受審準備を進める。受審スケジュール、必要な項目、必要な資料等について正確に理解すると共に、資料の収集を行い作成作業がスムーズに進むようにする。情報収集のため、日本高等教育評価機構主催の説明会へ出席し、完成イメージを得るために他校の作成した自己点検評価書の収集・検討を行うことを予定している。

3) 授業評価アンケート及び教員による授業評価

今後も、アンケート統計処理や統計処理結果の有効活用のため、実施と共に制度や運用の改善を目指す。

入試委員会

構 成 員：新田 静江、吉川 一枝、深谷 智恵子、原田 光子、平山 香代子、大石 昌也、
宮城 孝満
江羅 茂
事務担当：宮本 聖子、碓井 豊一、小原 美乃里

会議開催状況

入試委員会開催回数：6回 実行部会開催回数：4回

審議事項・活動内容

1) 入学試験関連業務

試験日は、公募推薦入試と指定校推薦入試を同日に、一般入試Ⅰ期を東京と本学にて2日、センター試験利用入試を1日、一般入試Ⅱ期を1日で実施した。また、試験会場は推薦入試、センター試験利用入試、一般入試Ⅱ期を本学で、一般入試Ⅰ期を本学と東京の2会場で行った。

推薦入試、一般入試、センター試験利用入試の募集要項を作成した。

推薦入試（指定校）は、新規4校を追加し、総計82校98名となった。

2) 入学試験

前年度入試成績を分析し、推薦入試の小論文の出題、一般入試の学科試験の出題について検討した。面接評価用紙における評価内容と注意点を加筆した。

3) 入学者選抜結果

入学者は推薦入試（指定校・公募）で40名（1.0倍）、一般入試Ⅰ期で32名（1.4倍）、一般入試Ⅱ期で3名（3.8倍）、センター試験利用で5名（1.2倍）の合計80名であった。

4) その他

入学者の入試区分と自然科学系科目における期末試験不合格率を算出し、生物でセンター利用入試と公募推薦と一般入試Ⅱ期で高く、化学は公募推薦で著明に高いことが明らかになったことから、生物と化学の学習に求められる基礎学力の修得をめざす補講の必要性を教務カリキュラム委員会と情報を共有することとした。

面接試験において評価者間の相違は小さく、合否審議対象となるC評価が増加している一方で、D評価は1件となっている。

今後の対応・課題

適切な入学者を確保するための選抜方法と受験生確保の検討が、喫緊の課題である。

図書・情報管理委員会

構成員：米林 喜男、佐藤 真由美、有家 香、金澤 貴子、工藤 由美、小林 美奈子、
宮城 孝満、柚山 香世子
堀 強、立野 幸子
担当事務：立野 幸子

会議開催状況

開催回数：8回

審議事項・活動内容

1) 図書館（管理運営）

新しい運用として、紹介状の発行開始、投函BOX「ひとことぼすと」、画像編集用PCの設置を行った。館内パソコンの利用検討は、館内は静粛に学習する場として現状維持とした。教員研究費購入資料の譲渡、卒業予定者の返却督促対応・卒後利用も実施する。

研究支援は教員と協同し、4年生「看護研究」授業内で文献検索を行った。また、今年度は通常展示の他、教員おすすめ本・著者本を展示した。

開館時間の試行結果、利用者数は少ないが、勉学の「場」として、来年度から正式に開館時間を21:00までにすることを決定した。事務局より閉館作業を学生アルバイト1人体制で運営するよう指示があったが、セキュリティ・運用管理面の問題があり、その体制でなければならないのであれば、リスクマネジメントの検討や対策が必要である。

2) 図書館（選書）

予算削減のため、国試関連資料・学生購入希望も厳選し、電子資料も統計を基に利用頻度の低い洋雑誌を中心に購読中止した。逆に利用頻度の高い医中誌はアクセス数増加で交渉をすすめている。他データベースでは機関登録による無料閲覧やトライアル比較検証をする事で予算を押さえながら利便性・情報提供の質を高めている。

購入・寄贈資料は選書委員の他、専門分野の教員の意見も取り入れながら選書した。

3) 情報管理

SNSガイドライン作成の依頼があり、当委員会では「個人情報保護規程」内での周知が望ましいとしたが、別途、人権・倫理に携わる足立准教授を中心に作成する事になった。

当委員会は法人規程を踏まえて、大学独自の個人情報保護規程案を作成してきた。

事務局に預け後は法人規程に集約の方向で再構成、現在担当者間で確認中。

今後の対応・課題

2015年度は学部生全学年が揃い、開学から4年間、基本的な図書館管理運営を整えてきた。2016年度からの開館延長に伴い、学生アルバイトも加わるため、個人情報保護を踏まえた職場環境の整備や業務分担、研修・教育が必要となる。

情報収集の利便性を向上するために図書館ホームページを改定したい。

また、教員と図書館の協同による計画的な文献検索教育を図り、さらなる学習・研究支援を目指したい。

積み残している寄贈資料の選定・受入を進めて、図書館蔵書の層を充実させたい。

個人情報保護規程の迅速な施行を実現したい。

人権委員会

構 成 員：宮本 眞巳、深谷 智恵子、太田 知子、足立 智孝、藤枝 悦子、
鈴木 悦子（外部委員）
担当事務：齊藤 可奈子

会議開催状況

開催回数：4回

審議事項・活動内容

1) ハラスメント相談窓口

人権委員会の下に、ハラスメント相談員として6名の教職員を配置し、学生、教職員の相談窓口としており、相談内容や相談者の意向に応じて人権委員会としての対応を協議した。今年度は学生及び教職員から、合わせて数件の相談があった

全学年を対象に年2回、前期、後期の始まりに合計8回、ガイダンスの一環としてハラスメント防止研修を行い、その内容や学生の反応について委員会で報告・検討を行った。内容としては、ハラスメントの本質であるパワー乱用と人権侵害、ハラスメントの種類、ハラスメントと人間関係やコミュニケーションとの関連、SNS上のハラスメントや臨床場面におけるハラスメントの実態等について説明した上で、具体的なハラスメント防止対策を紹介し、相談窓口の利用を呼び掛けた。

2) 職場におけるハラスメント防止に向けた活動

職場におけるハラスメント防止に向けて、教職員合同FDを企画し、3月16日に実施した。ハラスメントについての認識の共有、職場における人間関係の見直しという2つの目標を設定し、問題点の共有に向けた短時間のレクチャーの後に、4つのテーマについて小グループによる率直な討論を行った後に、記述式のアンケート調査を行った。どのグループでも活発な討論が交わされたが、人間関係やコミュニケーション上の問題を感じている教職員の声が聞かれ、そのような状況の改善がハラスメント防止につながるとの意見が多かった。

今後の対応・課題

1) 学生を対象としたハラスメント防止対策について

学生への相談対応は年間数件あったが、学生生活満足度調査の結果からみると窓口活用に迷う学生もいると考えられる。したがって、ガイダンス等の機会を利用して相談しやすい環境づくりに努めると共に、授業の中でも、ハラスメントにつながる可能性のある人間関係について率直に話し合う機会を作っていく試みが必要と考えられる。

2) 教職員を対象としたハラスメント防止対策について

FDの討論結果から、職場での人間関係をめぐる葛藤やコミュニケーション不足などの問題はあるが、相談窓口を利用した場合の影響についての不安感が払拭しきれない様子が伺われた。したがって、相談窓口を安心して利用できるための工夫が必要であり、相談員と人権委員の合同による研修が必要と考えられる。また、ハラスメント防止研修以外にも、職場環境の改善に向けて教員と事務職員の枠を越え、職場での疑問や不満について率直かつ安全に語り合える機会を作る必要があると考えられる。

研究倫理審査検討委員会

構成員：足立 智孝、新居 富士美、小幡 光子、佐久間 夕美子、古賀 雄二
担当事務：平川 弘一、橋本 昂一郎

会議開催状況

開催回数：4回

審議事項・活動内容

- 1) 倫理審査関連文書の作成ならびに改正
「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に対応した様式に改正した（運用開始は平成 28 年 4 月 1 日から）。
- 2) 亀田医療大学研究倫理審査委員会審査運営細則の改正
迅速審査方法の変更に伴い、運営細則の改正を行った。
- 3) 学生の研究について
看護研究ゼミにおける研究データの保管について検討した。
学生が教員と共同で研究倫理審査申請を行う際の倫理研修の要件を検討し、3 年次及び 4 年次の研究倫理の講義受講を要件とすることとなった。
- 4) 倫理委員会報告システム掲載情報について
厚生労働省の研究倫理委員会報告システムに本委員会の議事録を掲載することにした。
- 5) 人文・社会科学系で人を対象とする研究を行う場合の指針等の作成
人文・社会科学系研究における指針の作成について検討したが、現行の指針で対応することとなった。
- 6) 委員の研修
学外で開催された研究倫理に関する研修会・学会に出席した（新居（平成 27 年 6 月 21 日）、足立（平成 27 年 12 月 12 日））。
- 7) 研究倫理審査委員会の運営
5 回の審査委員会を開催し、新規申請 11 件（うち申請取り消し 1 件）、変更申請 5 件の審査を行った。

今後の対応・課題

- 1) 新しい申請様式による審査運営および改善
- 2) e-learning による倫理研修の励行
- 3) 本委員会委員の倫理研修

保健衛生安全管理委員会

構 成 員：深谷 智恵子、栗栖 千幸、渡邊 八重子、鶴沢 淳子、遠藤 寛子、吉野 妙子、
鈴木 玲子、堀 強、間宮 庄治、金丸 満理子（非常勤保健師）、古谷 直子（外部委員：
亀田総合病院地域感染症疫学・予防センター）

担当事務：松村 広典

会議開催状況

開催回数：8回

審議事項・活動内容

1) 学生保健に関すること

- (1) 1～4年生全員に健康診断を実施し、健康問題を抱える学生に対して保健師および委員で健康支援を実施した。
- (2) 「感染症対策：ワクチン接種の必要性、医療従事者の責務」として校医による、「感染症から身を守る」として感染管理認定看護師による説明会を開催し感染予防教育を実施した。
- (3) ワクチン接種：入学生に関しては、後の臨床実習に備えて母子手帳からワクチン接種歴を確認し、必要な学生に小児感染症に関するワクチン接種を実施した。百日咳ワクチンは1年生、2年生全員に実施、HB ワクチンに関しては今年度も1年生対象に実施した。インフルエンザ予防接種に関しては、10～12月にかけてほぼ全学生がワクチン接種を行った。

2) 防災訓練に関すること

- (1) 津波避難訓練に関しては、今年度も鴨川市の避難訓練に合わせて実施したが、今年度は鴨川小学校の児童の受け入れは要請がなかったため行わなかった。4年生は選択科目の実習で学外の出でおり参加者は少なかった。マニュアルを作成し避難を実施したが、情報が徹底できず、合図や目印などの物品が不足し多少混乱が見られた。
- (2) 消防訓練は、7月は学生会館中心に、10月は本校舎中心にと2回行った。10月は、2、3、4年生が臨地実習で学外のため、主に1年生が参加しての実施であった。
- (3) BLS教育：1、2期生は授業の中で実施されていたが、今年度から、BLS教育を保健衛生安全管理委員会へ委託された。4名の教員にBLSプロバイダーの資格を取ってもらい、ICLSの指導ができる教員、かつてプロバイダーを取った教員や職員がインストラクターとして1、2年生対象に授業の無い土曜日1日かけて実施した。

今後の対応・課題等

保健室は、常にオープンで利用できるようになっているが、保健師が非常勤で週2日の勤務のため学生の健康問題は委員である教員へ連絡が入るため、授業や実習を行いながらの対応は難しいことも多い。全学年揃ったため保健業務も増えてきており保健師の常駐時間を増やす必要がある。

BLS教育に関しては、今後1、3年生対象に実施することで在学中に1人2回教育されることとなる。亀田総合病院にはBLSインストラクター多数いる為、病院の協力を得ていくことが望ましい。本学にはAEDが5台完備されているため、全員が使用できる基礎づくりが必要である。

教務・カリキュラム委員会

構 成 員：休波 茂子、太田 知子、小幡 光子、吉川 一枝、新居 富士美、平山 香代子、
久保 幸代、古賀 雄二
江羅 茂、碓井 豊一
事務担当：安田 紫音

会議開催状況

開催回数：12回

審議事項・活動内容

1) 審議事項

開学4年目の平成27年度は、ACより「教育内容の適正な実施」などに関する指摘を受け、以下のことを課題として委員会活動を行った。

(1) 教員による教育力向上への支援

効果的な講義・演習・実験の実施、教員の教育力向上の検討（FDとの連携）

(2) 教育内容の適正な実施

看護教育の基礎となる分野（英語、化学、生物、数学など）の教育内容と方法の改善とその評価、学生への科目の位置づけ・科目の順序性・科目間の関連・教育内容等の確実な説明、シラバスの教育内容に沿った授業実施の周知と確認

(3) 学生の学習への支援

学生の単位修得への指導と支援（学修支援）、学生の主体的な授業参加への支援、進級への支援（2年次進級判定）、単位不足の学生への指導と支援、基礎ゼミナール及び研究ゼミナールの実施、卒業要件と判定

2) 活動内容

(1) 前期・後期ガイダンスの実施 (2) 履修登録の実施 (3) 平成27年度ゲストスピーカーの決定 (4) 既習修得単位の認定 (5) 一期生卒業要件の確認 (6) 中間・定期試験、再試験の実施 (7) 成績評価と単位認定、進級判定 (8) 平成28年度新非常勤講師の追加、変更等 (9) 退職に伴う科目担当者の検討 (10) 平成28年度学生便覧作成（修正） (11) 平成28年度シラバス作成（修正） (12) 平成28年度時間割の調整と作成 (13) 平成28年度基礎ゼミナールの担当者の検討 (14) 学生の休学の対応 (15) 平成27年度研究ゼミナールの運営（発表、倫理審査等） (16) 平成28年度研究ゼミナールの準備 (17) 看護学臨地実習に関わる内規の検討 等

今後の対応・課題

1) 教員による教育力向上への支援（FDとの連携）

(1) 教員の教育力向上のための研修

(2) 効果的な講義・演習・実験の実施とその評価

2) 教育内容の適正な実施

(1) シラバスにある教育内容に沿った授業の実施（継続）

(2) 看護教育の基礎となる分野（英語、化学、生物、数学など）の教育内容と方法の改善と評価（継続）

3) 学生の学習への支援

(1) 学生の単位修得への指導と支援（学修支援）（継続）

(2) 学生の主体的な授業参加への支援（授業態度の育成）（継続）

(3) 進級への支援（2年次進級判定）（継続）

- (4) 単位不足の学生への指導と支援
 - (5) 進級判定の見直し
 - (6) GPA 導入に関わる検討
- 4) 平成 29 年度新カリキュラム実施に向けての準備
- (1) 新旧カリキュラムのマッチング
 - (2) 科目担当者の検討 (非常勤講師も含む)
 - (3) 新カリキュラムの学生への説明、教員への周知
 - (4) 旧カリキュラム単位未修得者への対応の検討 等

臨地実習委員

構 成 員：真野 響子、休波 茂子、太田 知子、平山 香代子、久保 幸代、栗栖 千幸、
小林 美奈子、吉野 妙子、遠藤 寛子、堀 強、碓井 豊一
担当事務：安田 紫音

会議開催状況

開催回数：11 回開催

審議事項・活動内容

平成 27 年度は、初めて 4 学年すべての学年が臨地実習を行う年でもあり、実習施設との連携強化に重点をおいて活動した。

- 1) 臨地実習委員会の組織づくり
ワーキンググループを作成し、役割の明確化により計画的に運営した。
- 2) 臨地実習の調整
学生数増加に伴う平成 27 年度および平成 28 年度の実習施設の調整を行った。
マイクロバスの運用に伴う審議を行った。
平成 28 年度の臨地実習に伴う交通費支給についての審議を行った。
- 3) 臨地実習環境の整備
亀田医療技術専門学校旧 2 号館の環境整備を行った。
- 4) 学生ガイダンスの起案と実施
- 5) 臨地実習報告会の開催
領域別実習と選択科目実習の報告会を企画運営した。
- 6) 臨地実習指導者会議の開催
亀田メディカルセンターでの臨地実習について、臨床指導者会議を計 6 回開催した。
- 7) 臨地実習指導に関する調整
臨地実習における学生の状況について、指導上、配慮が必要な内容について情報交換を行った。
- 8) 臨地実習の追・再履修についての規定の検討
履修前提科目の単位未取得により臨地実習が履修できない場合の対応、傷病等の理由による追・再履修に関する履修規定について、教務委員会と連携し、案を作成した。

今後の対応・課題

平成 28 年度は、亀田医療大学と亀田医療技術専門学校の学生数の増加と、安房医療福祉専門学校の領域別実習も開始となるため、亀田メディカルセンターおよび安房地区での在宅・地域領域での臨地実習の調整が必要となる。

- 1) 委員会全体
新カリキュラム作成に向けての臨地実習全体の評価と調整
実習調整会議の開催と臨床指導者会議の充実
- 2) 実習要項関連
臨地実習要項(共通)の改定
看護技術修得表の評価と改定(亀田総合病院看護部との連携による)
- 3) 実習施設の環境整備
学生数増加に伴う亀田医療技術専門学校旧 2 号館の備品の追加と整備
亀田メディカルセンター新電子カルテ(Ao Lani)の取扱いマニュアルの作成
マイクロバス運用に伴う取り決め

学生委員会

構 成 員：吉川 一枝、足立 智孝、平山 香代子、佐久間 夕美子、佐藤 真由美、中島 洋一
松丸 直美、中川 泰弥
江羅 茂、庄司 良幸
担当事務：松村 広典、宮本 聖子

会議開催状況

開催回数：14 回

審議事項・主な活動内容

- 1) 自治会学生・学生委員会教員との交流会開催
当初計画していた6月には実施できず、開催日が大学祭終了後の11月にずれ込んだ。
- 2) チューター制に関する評価および検討
チューター制について教員にアンケート調査を実施した。その結果、現チューター制を支持する意見が多かったが、一部改善意見も見られた。
- 3) 性教育講演会の開催
7月亀田総合病院産婦人科医師、遠見才希子先生による講演会を開催した。多くの学生の参加を得た。
- 4) 保護者懇談会開催およびチューター面接の実施
5月後援会総会時に、保護者懇談会およびチューター面接、11月大学祭時には、チューター面接を実施した。懇談会には約60名、面接には約65名の保護者の参加を得た。
- 5) 学生生活満足度調査の実施
全学生対象に学生支援体制およびキャンパス環境に対して満足度調査を実施した。
この結果、自由記述において、学生から様々な意見が寄せられているため、各担当部署においてこの結果を分析・検討し、学生支援およびキャンパス環境を改善していく。
- 6) 各種奨学金に関する選考
- 7) 各種表彰対象者の選出
- 8) 学生懲罰に関する対応
- 9) 卒業関連行事に関する支援
- 10) ガイダンスの計画・立案
- 11) VOICE ボックス対応

次年度の課題

- 1) チューター制度の改善
- 2) 学生アルバイトに関する支援
- 3) 調査実施計画の立案（生活実態調査・生活満足度調査他）
- 4) 奨学金に関する支援
- 5) 性教育講演会開催
- 6) 学生自治会に関する助言
- 7) 自治会学生・学生委員会教員交流会

進路支援委員会

構 成 員：吉川 一枝、太田 知子、眞野 響子、工藤 由美、有家 香、金澤 貴子、
柚山 香世子、吉野 妙子、宮崎 俊一郎
碓井 豊一
担当事務：松村 広典

会議開催状況

開催回数：14 回

審議事項・主な活動内容

1) 国家試験対策

- ・国家試験対策における意見交換会実施（学内教員 4 月 9 日）
- ・4 年生に対する補講・特別講義・課題学習実施
- ・各種模擬試験実施
4 年生 業者模試 6 回、学内模試 5 回実施
3 年生 業者模試 2 回、学内模試 1 回実施
2 年生 業者実力確認テスト 2 回実施
- ・国試ガイダンス（新年度および夏休み前）実施（業者および学内）
- ・学生国家試験準備委員支援
- ・教員対象看護師国家試験対策セミナー実施（業者）
- ・国家試験対策に関するアンケート調査実施（4 年生）
- ・模試代金保護者負担軽減のための取り組み
- ・模試結果成績不振の学生保護者に対する手紙の発送（4 年生）
- ・保護者懇談会（4 年生）
- ・国家試験受験に関する支援
看護師国家試験願書記入説明会・准看護師試験願書記入説明会実施
試験前日および当日に関する支援（前泊ホテル・バス・弁当等の手配および引率）

2) 就職支援

- ・亀田メデイカルセンター就職ガイダンス実施（2,4 年生対象）
- ・進路希望調査の実施（2,3,4 年生対象）
- ・医療接遇マナーガイダンス実施（1,2 年生対象）

※今年度委員会では、主に I 期生の看護師国家試験 100%合格を目指し、様々な取り組みを行ってきた。しかし、次年度以降も同様の活動を行うことには限界があり、何らかの対策を検討する必要がある。

今後の対応・課題

- 1) 業者による国試対策の強化
- 2) 学内における国試対策の強化
 - ・成績の振るわない学生に対する支援の強化
 - ・個別指導が必要な学生を早期に選別し、すべての教員チームによる支援

FD (SD) 委員会

構 成 員：小幡 光子、久保 幸代、大石 昌也、渡邊 八重子、新居 富士美、高橋 道明、
松丸 直美、宮崎 俊一郎、小坂 玲音、中川 泰弥
羽田 洋一 (SD)
担当事務：橋本 昂一郎

会議開催状況

開催回数：10回

審議事項・活動内容

1) AC 対応のための組織的な FD 計画の立案と実施

設置計画履行状況調査における是正意見である日々の教育活動の点検、学生の学習成果につながる適切な FD 活動への取り組みが最重要課題であった。そこで年間 FD 計画を作成し、カリキュラムマップの作成、授業展開研修会の開催など、全教員の協力・参加を得て FD に取り組んだことで、ヒアリングに対処でき、AC において評価された。

2) FD 委員会としての独自の活動

学内の教員及び職員に対して、①能力向上を目的とした各種研修会を実施、②運営のサポート、統括を行うとともに、「FD とは何か」の講演会と 2 つの研修会を実施した。この活動を通してすべてのメンバーが成長し、各委員の役割分担の明確化と自主的な企画・運営に向けての体制づくりができ、この活動自体が FD になっていた。

(1) 実習指導者研修会 (全 8 回)

研修生の研修目標の達成度 (アンケート結果より) について、すべての項目において「十分できた」「できた」が 90%以上であった。

H28 年度から、より現場のニーズに沿ったプログラムにするため、看護部との共催で実施することとなり、既に WG が発足し企画が進行している。

(2) 授業展開研修会 (全 11 回)

上記改善意見を踏まえ、年間を通じ授業展開研修会等を実施し、教員の能力向上に取り組んだ。授業参観を実施したがその評価および授業評価の在り方については、今後、副学長 (教務委員会 / 評価委員会) の主導のもと、まとめ・報告がされる予定である。

今後の対応・課題

1) 全体として

H27 年度の課題でもあった、大学 (組織) としての FD (人材育成) に対する基本方針と中・長期計画と目標の設定、実施責任体制の明確化。

2) FD 委員会として

教育の質の向上 (= 教員の質の向上) を目指し、亀田の学生・教員のニーズに応じた、具体的な授業改善につながる FD の実施と評価

委員ひとりひとりが社会政策や教育に関連する動向に関心を持ち、情報収集と情報を発信する力量をつけ、FD のオーガナイザーを目指す。

研究支援委員会

構 成 員：宮本 眞巳、深谷 智恵子、原田 光子、大石 昌也、佐久間 夕美子、佐藤 真由美
担当事務：橋本 昂一郎、平川 弘一

会議開催状況

開催回数：5回

審議事項・活動内容

1) 学長裁量経費特別研究費配分の申請に対する意見

本年度は2件の申請があり、2件の申請について採用の推薦を学長に行った。推薦を行った2件は特別研究費配分に採用され、年度末に実施した平成27年度研究交流会において、研究成果が報告された。

2) 平成27年度科研費説明会について

平成27年9月3日(木)に実施した。演目は、①科研費申請事務手続き、②研究デザインについて(講師 臨床研究支援室 星野副室長)、③科研費採択課題の研究計画概要について(講師 小林美奈子講師、佐久間夕美子講師)であった。

③において、採択された要因についての自己分析(新規性の内容や、新規性を打ち出すための具体的方法)、研究計画の発想の契機など、新規採用に有用な情報が提供された。

参加者数は全30名で、客員研究員及び亀田総合病院医師の参加も得られた。

科研費の採択件数3件、平成28年度申請件数14件(本学教員のみ)であった。採択された研究計画については、計画書の閲覧ができるようにした。

3) 平成27年度研究交流会について

平成28年3月9日(水)に実施した。学長裁量経費特別研究費配分や、科研費採択者を中心に発表者を指名し、実施した。今年度は、亀田総合病院看護部ICU所属看護師による発表もあった。

参加者数は全45名で、本学学生及び亀田総合病院看護師も参加していた。研究交流の目的を達成できたとの意見が大半ではあり、亀田総合病院看護師の発表があったことに対して好意的であった。亀田総合病院看護部からも有益な交流ができたとの意見が得られた。

今後の対応・課題

1) 学長裁量経費特別研究費の申請審査

年度初頭に学長裁量経費特別研究費の配分申請について告知を行い、適時適切に審査及び推薦を行う。配分可能な枠は3~4件なので、更に応募の勧奨と支援に努める必要がある。配分を受けたものの、その後の報告の無い教員については、研究状況のヒアリングや具体的な研究指導など、フォローアップを行い有効な研究費の活用に資するようにしたい。

2) 研究交流会

研究交流会の実施は、当面これまで通り、年1回とする。研究情報の交換が大きな目的なので、これまで発表していない教員の発表も促したい。教職員以外の者(亀田総合病院職員、本学学生など)の参加もしやすくなるように、日時・場所の告知は早期に行いたい。

3) 科研費申請支援

科研費説明会を実施し、教員及び客員研究員の申請に有益な情報を提供する。本年度のように、採用されるための具体的な情報を盛り込み、採用数の増加に資するようにしたい。

また、科研費に限らないが、研究活動につき相談があればいつでも対応できる体制が研究支援委員会にあるので、その点を告知していきたい。

4) 研究活動基盤規程の整備について

利益相反ポリシー、知的財産管理規程等の、研究活動の基盤となる規程の整備を行いたい。

国際交流委員会

構成員：新田 静江、原田 光子、足立 智孝、工藤 由美、中島 洋一、碓井 豊一
担当事務：小原 美乃里

会議開催状況

開催回数：3回

審議事項・活動内容

1) 鴨川市青少年海外交流事業への参加

7月29日、鴨川市国際交流事業として来市した米国ウィスコンシン州マニトワック市の高校生6名を受け入れた。当日は、1年生2名と2年生1名のボランティアとともにキャンパスツアーを行い、茶道部員が在宅看護学実習室で設けたお茶席に参加し、交流をはかった。

2) ラオスの大学生の受け入れ

1月28日、鴨川市プラットフォーム推進協議会に要請のあったJENESYS2015 招へいプログラム（日本国際協力センター）として、ラオスの大学生20名と教員1名を受け入れた。参加学生は、大学概要説明とキャンパスツアーの後、実習室で「わかめの会」の学生ボランティアの指導下でBLSと聴診を体験し、積極的な交流がはかられた。

3) 中国人研修生の受け入れ

2月23日、文理開成高校からの要請を受け、亀田総合病院と本学では、日本語の研修を受けている56名の中国人中学生を受け入れた。研修生は、2グループに分かれ、本学を訪問した。研修生には、大学概要説明とキャンパスツアーの後、乳幼児ケアと妊婦体験を実施したが、数名の研修生は、全く関心を示していなかった。

今後の対応・課題

- 1) 学外からの要請される外国からの研修生などの受け入れから、実施予定期日までが短期間であるために、学内調整に困難をきたしているため、関連機関に迅速な情報提供を依頼することが課題である。
- 2) 学生との交流要請は、修学に支障をきたさないことを前提に受け入れる。

総合研究所運営委員会

構 成 員：亀田 省吾、宮本 眞巳、橋本 裕二、夏目 隆史、佐久間 夕美子、佐藤 真由美
堀 強

担当事務：橋本 昂一郎、平川 弘一

会議開催状況

開催回数：3回

審議事項・活動内容

1) 客員研究員の登録について

客員研究員新規登録申請者 8 名、継続登録希望者 1 名について審査し、全 9 名について登録を推薦することとした。

なお、客員研究員の文科省科研費について、採択件数 0 件、平成 28 年度申請件数 8 件であった。また、科研費採択結果を受けて、科研費に採択されるテーマについて調査したところ、看護学部であっても看護と異なるテーマで採用されることが可能であることが確認できた。

2) 研究ゼミナール（4 年次配当科目）における亀田総合病院での研究活動への対応について

本学学生が研究ゼミナールで研究を実施する場合、大学において研究内容を判断し、研究倫理審査が必要とされたものは亀田総合病院臨床研究審査委員会を受審することとした。

3) 臨床研究支援室活動

総合研究所の活動としての位置づけで、臨床研究支援室を事務局として亀田総合病院職員を対象としたペーパーオブザイヤーの選定を行った。

今後の対応・課題

1) 亀田総合病院との一元的な研究支援体制について

亀田総合病院内の研究支援体制再編を受けて、臨床研究支援室が亀田総合病院における臨床研究審査（研究倫理審査）を受託する可能性があり、今後検討を進めていく。

2) 客員研究員募集

来年度以降、客員研究員募集手続きを全て大学で行う。

3) 院内初回講習の大学との連携

亀田総合病院院内初回講習を、大学で実施する研究倫理教育で代替するための体制について検討し、実施できるようにしたい。

4) 科研費申請時の研究倫理審査承認要件化

科研費申請時における研究倫理審査の承認要件化に向けて、亀田総合病院での臨床研究審査後に、大学においても倫理審査を行うなど、研究計画書や研究内容の不備が指摘されないような手続きを構築していく。なお、現状においても、客員研究員が主たる所属機関（亀田総合病院等）で研究倫理の審査を受審した場合は、本学においても迅速審査を受けることとなっている（平成 26 年度第 2 回総合研究所運営委員会承認事項）。

5) 研究実績の公開について

亀田医療大学所属教員の発表論文数を分野ごとに整理し、公開していきたい。なお、発表論文名については、既に年報に掲載している。

地域連携室運営委員会

構 成 員：宮本 眞巳、新田 静江、眞野 響子、栗栖 千幸、金澤 貴子、松丸 直美
堀 強、羽田 洋一
事務担当：平川 弘一

会議開催状況

開催回数：7回

審議事項・活動内容

1) いっぺさ！鴨川シアター

昨年度に引き続き、地域連携室主催の映画上映会を企画・運営した。平成 27 年度は 4 回実施した。年間で参加者数 377 名、業務用ソフトレンタル費用 217,080 円であった。

多くの地域の方に見てもらえるよう、市の広報誌、地元新聞社、実習先の掲示板等で上映会の告知を行った。学内イベントに参加していただいた個人へ個別に通知をすることが、告知として有効ではないかと考えられる。

2) 市民公開講座

市民公開講座を企画・運営した。「この地で自分らしく生きる～地域包括ケアと自助・互助・共助・公助～」を演題に、新田静江教授による講義が行われた。参加者は 21 名であった。参加者がクイズに答える機会を作るなど理解を深める工夫が凝らされ、参加者には好評だったが、開催日が冬季であったこと、連休の初日であったことの影響か、多くの参加者を得られなかった。

3) 地域の高校との高大連携

長狭高校に開設されている医療・福祉コースの授業運営に、大学として行っている支援を本委員会が中心となって担ってきた。一期生となる 2 年生を対象に、高校での出張講義及び本学施設を使った実習を行った。

4) 鴨川地域医療携会議への参加

本委員会委員を中心に、鴨川地域医療携会議に毎月参加し、同会議による活動計画の企画・運営に関与し、同会議の開催状況及び活動内容については逐次報告を行った。なお、今年度の活動の主なテーマは昨年度に引き続き鴨川市、地域医療機関等と薬剤師との連携であり、その成果として一般市民向けのリーフレットと DVD を発行することができた。

5) 地域イベント主催者からの参加要請への対応

リハビリテーション・ケア文化祭の参加等、学生ボランティア募集を行っているイベントの把握、及び必要時の調整などを行った。また、安房医療ねっとの開催に際し、2 度本学を会場として提供した。

今後の対応・課題

1) いっぺさ！鴨川シアター

昨年度に引き続き、上映会を定期的に開催する。より多くの地域の方々に利用してもらえるよう、現在の告知手法の維持改善に努め、認知度を上げていきたい。参加者の要望に応え年 5 回の開催を計画し、市民公開講座のテーマと歩調を合わせつつ、上映作品の選定は広いジャンルから選べるようにしたい。

2) 市民公開講座

他の行事とのバランスを考慮した上で、可能であれば年 2 回の開催としたい。テーマは、上映会との関連についても考慮する。より多くの参加者を集めるために、開催時期を春季、秋季に設定していきたい。

3) 地域の高校との高大連携

長狭高校の医療・福祉コースは、平成 28 年度の希望者が大幅に増加している。また全学年のコースが揃い、平成 27 年度以上にコース運営への関与を期待されており、具体的な支援内容について検討を要する。同校以外の地元の高校との連携についても検討していく。

4) 鴨川地域医療携会議への参加

鴨川地域医療連携会議に引き続き参加し、同会議による活動計画の企画・運営に関与していく。28 年度の活動の主なテーマとして栄養士、管理栄養士との地域連携が課題として挙がっており、この活動についても積極的に関与していく。

5) 地域イベント主催者からの参加要請への対応

地域イベント等、外部組織からの参加要請について、引き続き教職員、学生への周知と共に、必要に応じて調整や支援を行っていく。外部からの参加要請を学生に周知する方法や、支援・調整が必要な場合の担当者に関して、明確化を図る必要がある。

6) 鴨川市生涯学習課との連携

鴨川市生涯学習課と、両組織の特徴を生かした連携活動を検討する。平成 27 年度末現在では、小学生向け看護体験（手洗い体験）を検討している。

8. 教職員リスト

1) 教員リスト (平成28年3月31日現在)

教員グループ	職名	氏名	備考
	学長	亀田 省吾	研究所長 総合研究所運営委員長
基礎・専門基礎	教授	米林 喜男	図書館長 評価委員長 図書・情報管理委員長
	准教授	足立 智孝	研究倫理審査検討委員長
	准教授	大石 昌也	
	助教	宮城 孝満	
基礎看護学	教授	休波 茂子	教務・カリキュラム委員長 学長特命補佐 (教育担当)
	講師	佐久間 夕美子	
	講師	渡邊 八重子	
	助教	有家 香	
	助教	鶴沢 淳子	
	助手	中川 泰弥	
成人・老年看護学	教授	小幡 光子	学長特命補佐(研究担当) FD(SD)委員長
	教授	深谷 智恵子	保健衛生安全管理委員長
	准教授	新居 富士美	
	准教授	眞野 響子	臨地実習委員長
	講師	古賀 雄二	
	講師	小林 美奈子	
	講師	佐藤 真由美	
	助教	高橋 道明	
	助手	鈴木 玲子	
	助手	小坂 玲音	
	助手	宮崎 俊一郎	
精神・在宅看護学	教授	太田 知子	
	教授	新田 静江	生涯学習センター長 入試委員長 国際交流委員長
	講師	栗栖 千幸	
	助教	中島 洋一	
	助教	松丸 直美	
	助教	柚山 香世子	
ウィメンズヘルス・ 小児看護学	教授	恵美須 文枝	副学長 大学院設置準備室長 広報委員長
	教授	吉川 一枝	学長特命補佐 (学生担当) 学生委員長 進路支援委員長
	講師	久保 幸代	
	助教	金澤 貴子	
	助教	吉野 妙子	

教員グループ	職名	氏名	備考
マクロ看護学	教授	原田 光子	
	教授	宮本 眞巳	地域連携室長 地域連携室運営委員長 人権委員長 研究支援委員長
	准教授	平山 香代子	
	講師	工藤 由美	
	助教	遠藤 寛子	

2) 職員リスト (平成28年3月31日現在)

所 属	職名	氏名	備考
	事務局長	江羅 茂	
管理部	部長	同上	兼務
管理部 総務課	課長	同上	兼務
	係長	羽田 洋一	広報・管理担当
	係長代理	藤枝 悦子	秘書担当
		齊藤 可奈子	人事担当
		橋本 昂一郎	人事・研究担当
		平川 弘一	庶務・研究担当
管理部 学務課	課長	江羅 茂	兼務
	係長	碓井 豊一	教務担当
	係長代理	小原 美乃里	広報担当
	係長代理	宮本 聖子	入試担当
		松村 広典	学生担当
		安田 紫音	教務担当
		山田 純子	学生担当
	係長代理	立野 幸子	図書館司書
財務部	財務部長	堀 強	
財務部 財務課	財務課長	同上	兼務
	課長補佐	間宮 庄治	施設担当
	課長補佐	庄司 良幸	予算・執行・決算担当
		久古 博之	予算・執行・決算担当

学校法人 鉄蕉館
2015（平成 27）年度
亀田医療大学年報
平成 28 年 9 月 30 日発行

亀田医療大学（編集・発行）
〒296 - 0001 千葉県鴨川市横渚 462 番地
TEL : 04 - 7099 - 1211（代）
FAX : 04 - 7099 - 1327
<http://www.kameda.ac.jp/>